

男女共同参画に関する市民意識調査

〔報 告 書〕

平成27年3月

薩摩川内市

平成22年度(薩摩川内市調査)

I. 市民意識調査の実施概要

1. 調査概要と回収状況

(1) 調査の目的

薩摩川内市における男女共同参画に関する市民の意識を調査し、今後の本市における男女共同参画社会の実現のため、各種施策の参考資料とする。

(2) 調査項目

- ① 女性の社会活動への参画に関する意識について
- ② 家庭観等に関する意識について
- ③ 男女の地位の平等について
- ④ 男女共同参画社会の形成に関する意識について
- ⑤ ドメスティック・バイオレンスについて

(3) 調査対象

薩摩川内市在住の20代から70代以上の男女各100名の計1,200名を無作為に抽出した。

(4) 調査方法

郵送配布、郵送回収

(5) 調査期間

平成22年6月23日(水)～平成22年7月31日(土)

(6) 回収状況

① 性別・年代別回答者数

年 代	女 性		男 性		合 計	
	回 答 数	構 成 比	回 答 数	構 成 比	回 答 数	構 成 比
20歳代	27	9.0%	12	4.0%	39	13.0%
30歳代	36	12.0%	15	5.0%	51	17.1%
40歳代	28	9.4%	26	8.7%	54	18.1%
50歳代	34	11.4%	13	4.3%	47	15.7%
60歳代	36	12.0%	20	6.7%	56	18.7%
70歳代以上	31	10.4%	21	7.0%	52	17.4%
合計	192	64.2%	107	35.8%	299	

② 回収率

女性：32.0%

男性：17.8%

全体：24.9%

平成26年度(薩摩川内市調査)

I. 市民意識調査の実施概要

1. 調査概要と回収状況

(1) 調査の目的

薩摩川内市における男女共同参画に関する市民の意識を調査し、今後の本市における男女共同参画社会の実現のため、各種施策の参考資料とする。

(2) 調査項目

- ① 家庭生活と女性の就業について
- ② 女性の参画について
- ③ 仕事と家庭・地域への取組について
- ④ 少子化について
- ⑤ 男女平等の意識について
- ⑥ 男女の人権について
- ⑦ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス) について

(3) 調査対象

薩摩川内市在住の20代から70代以上の男女各100名の計1,200名を無作為に抽出した。

(4) 調査方法

郵送配布、郵送回収

(5) 調査期間

平成26年10月31日(金)～平成26年11月30日(日)

(6) 回収状況

①性別、年代別回答者数

年齢	女性		男性		合計	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
20歳代	25	5.1%	18	3.7%	43	8.8%
30歳代	39	7.9%	21	4.3%	60	12.2%
40歳代	44	9.0%	28	5.7%	72	14.7%
50歳代	62	12.6%	32	6.5%	94	19.1%
60歳代	56	11.4%	61	12.4%	117	23.8%
70歳代以上	47	9.6%	58	11.8%	105	21.4%
合計	273	55.6%	218	44.4%	491	

②回収率

女性45.5%

男性36.3%

全体40.9%

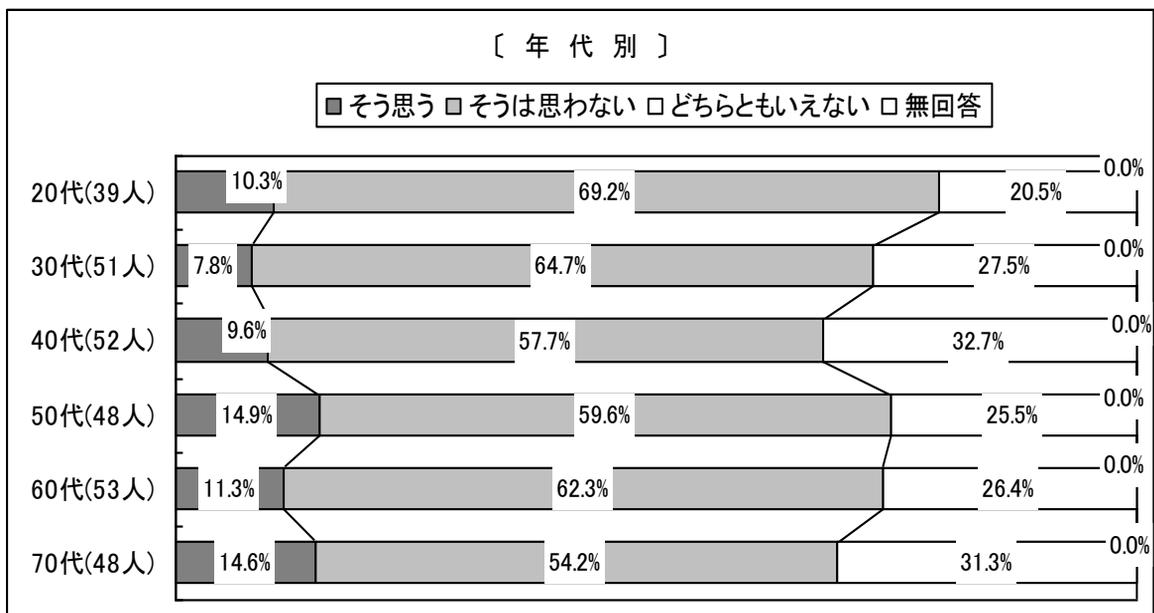
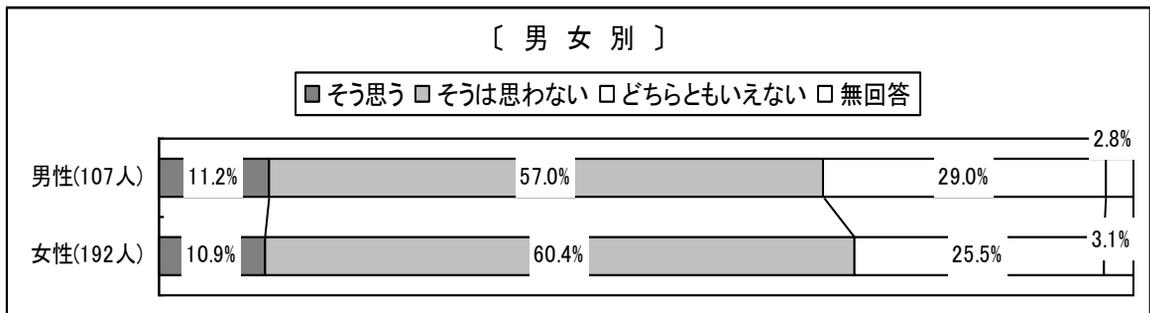
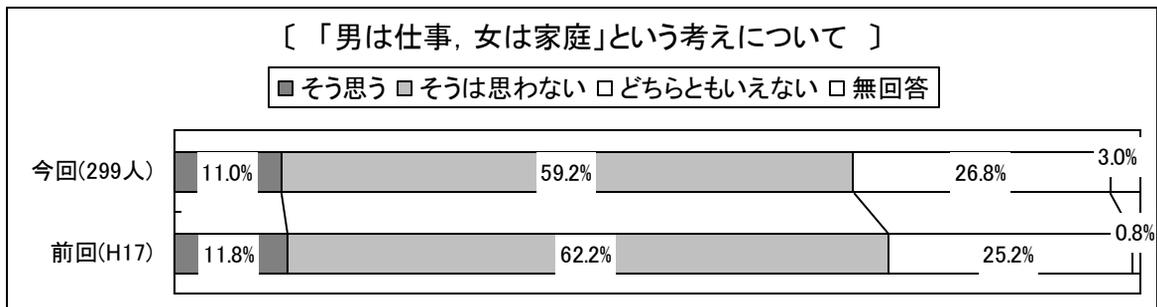
平成22年度(薩摩川内市調査)

II. 市民意識調査の結果分析

1. 『女性の社会活動への参画に関する意識について』

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思われますか。

〔傾向〕 前回と比較すると、大きな数値の変動は見られず、「そう思わない」との回答が59.2%であり、女性の社会活動への参画に関する意識が高いままである。これを年代別に見ると20代、30代、60代の順で高い数値が示された。



平成26年度(薩摩川内市調査)

II. 市民意識調査の結果分析

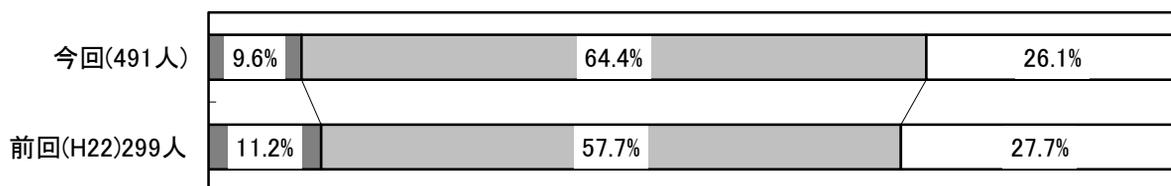
1. 『家庭生活と女性の就業について』

問1 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのようにお考えですか。

〔傾向〕 前回と比較すると、「そうは思わない」と回答した人が増え、女性の社会活動への参画に関する意識が高まってきている。性・年代別にみると、男性の17%が「そう思う」と回答しており、特に70歳代と30歳代の割合が高くなっている。

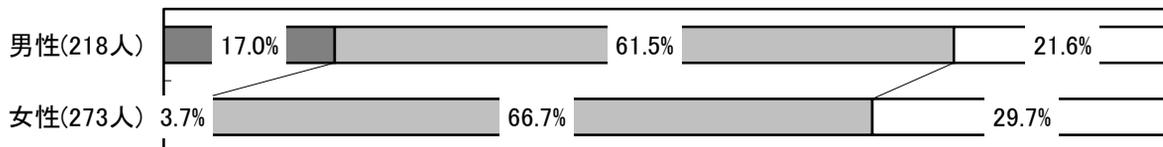
〔「男は仕事、女は家庭」という考えについて〕

■ そう思う □ そうは思わない □ どちらともいえない



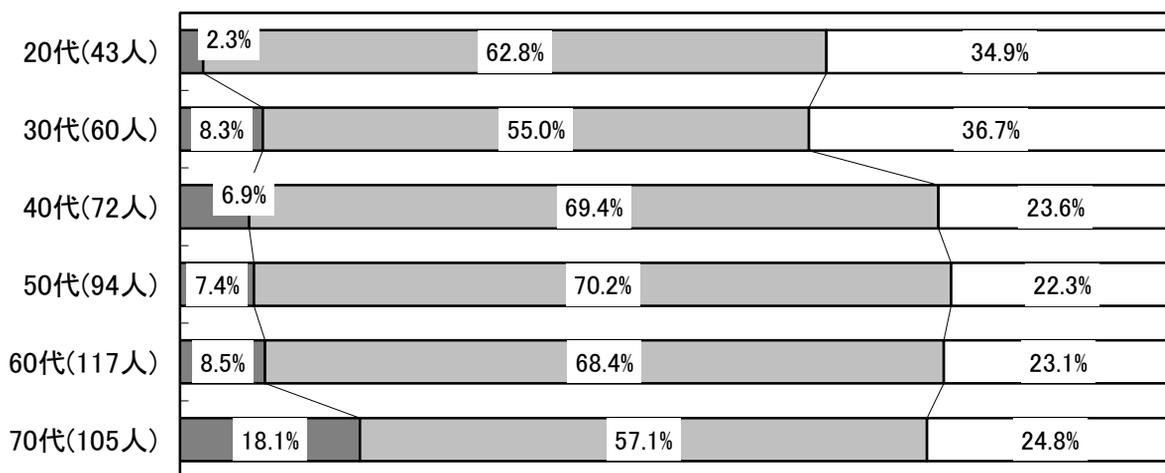
〔男女別〕

■ そう思う □ そうは思わない □ どちらともいえない



〔年代別〕

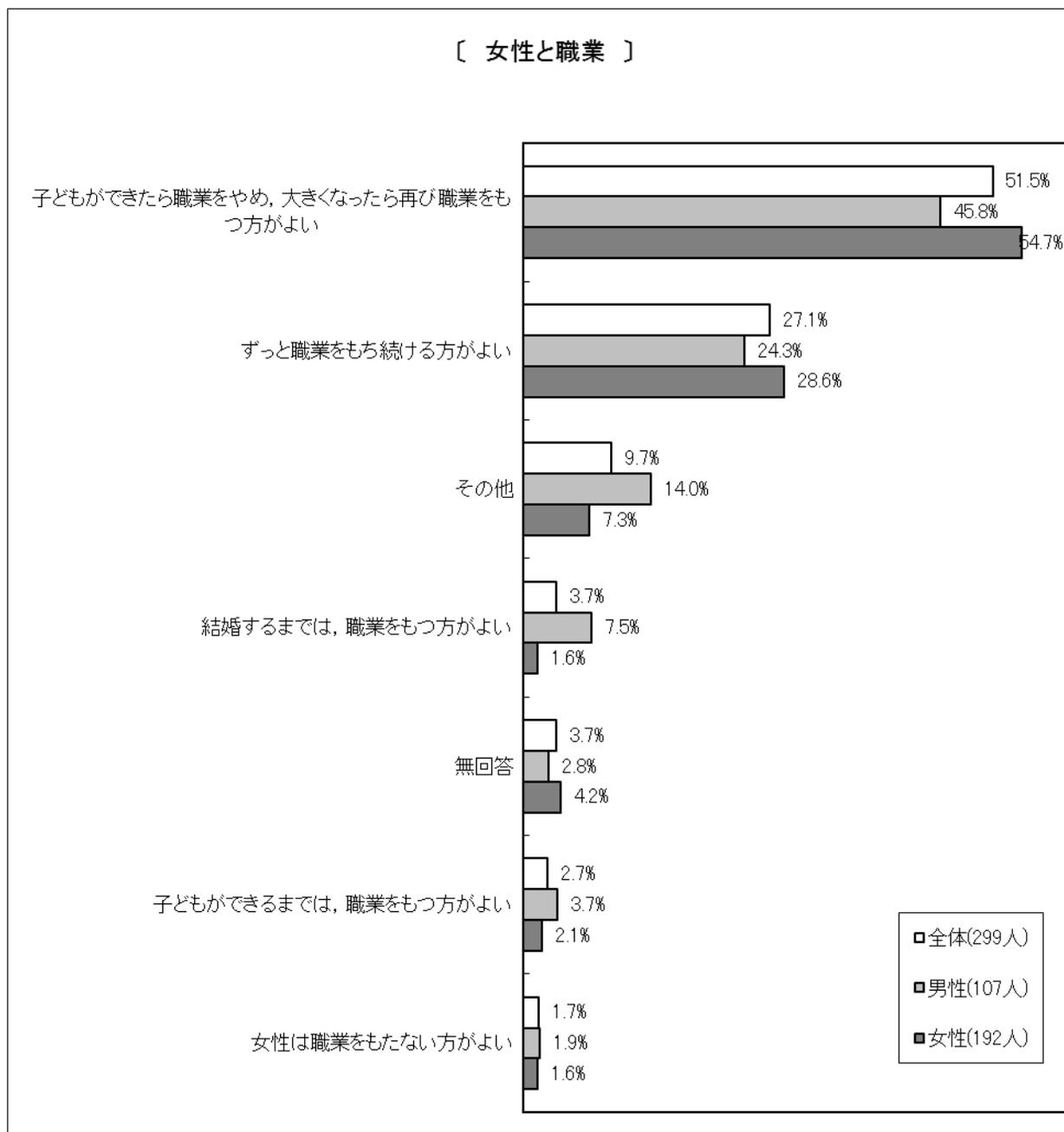
■ そう思う □ そうは思わない □ どちらともいえない



平成22年度(薩摩川内市調査)

問2 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。

〔傾向〕 「子どもができればたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が半数くらいいる。また、女性が職業を持つことと、育児とは密接な関係があることがうかがえる。



平成26年度(薩摩川内市調査)

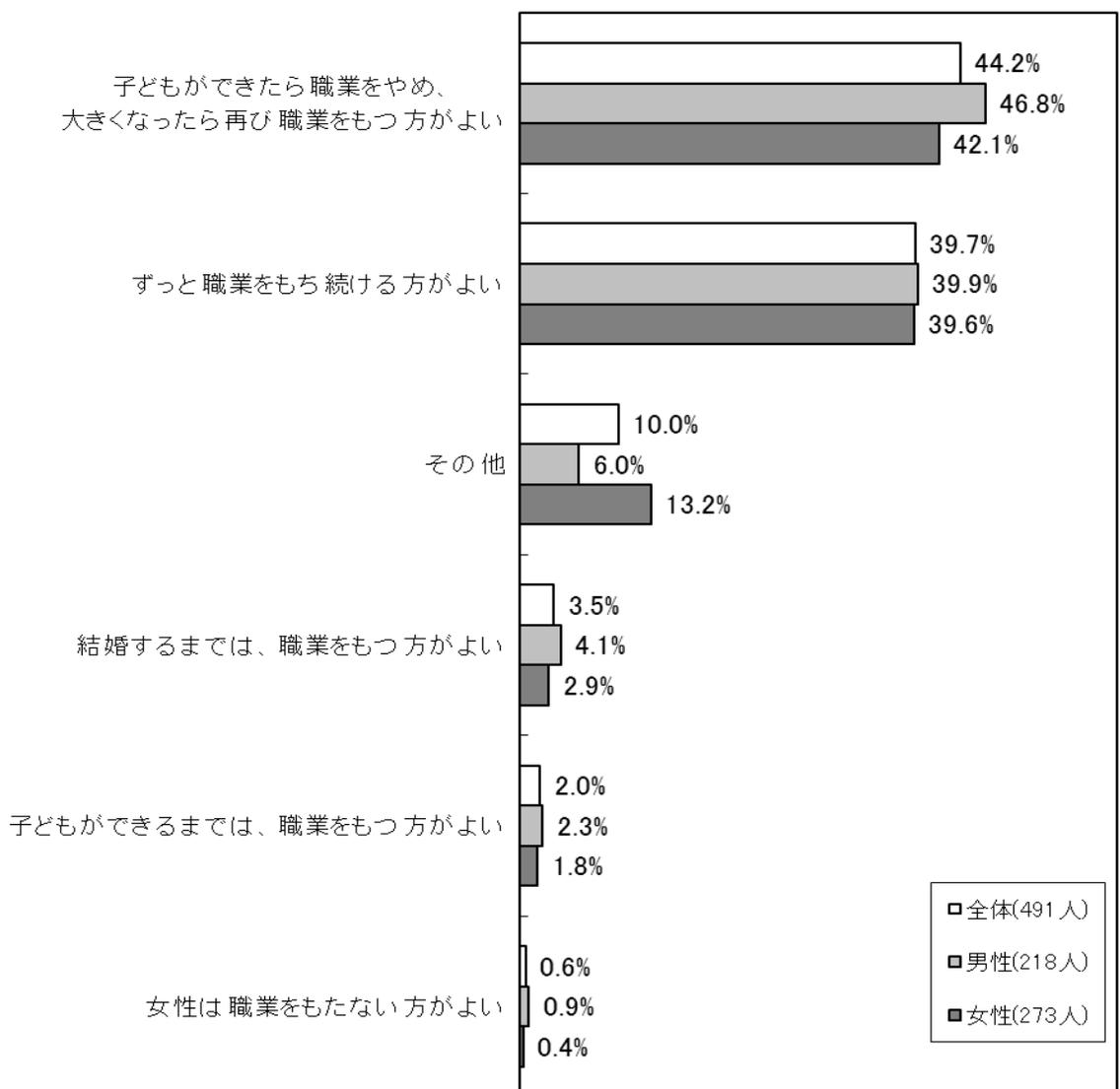
問2 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えになりますか。

〔傾向〕 「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が前回より全体で7.3ポイント、女性で12.6ポイント下がっている。「ずっと職業をもち続ける方がよい」が男性で15.6ポイント、女性で11ポイント上昇している。

年代別にみると、70歳代男女において、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した人の割合が高い。

また、30歳代女性の回答では「その他」が36%あり、多様な生き方の選択を求めている様子が伺える。

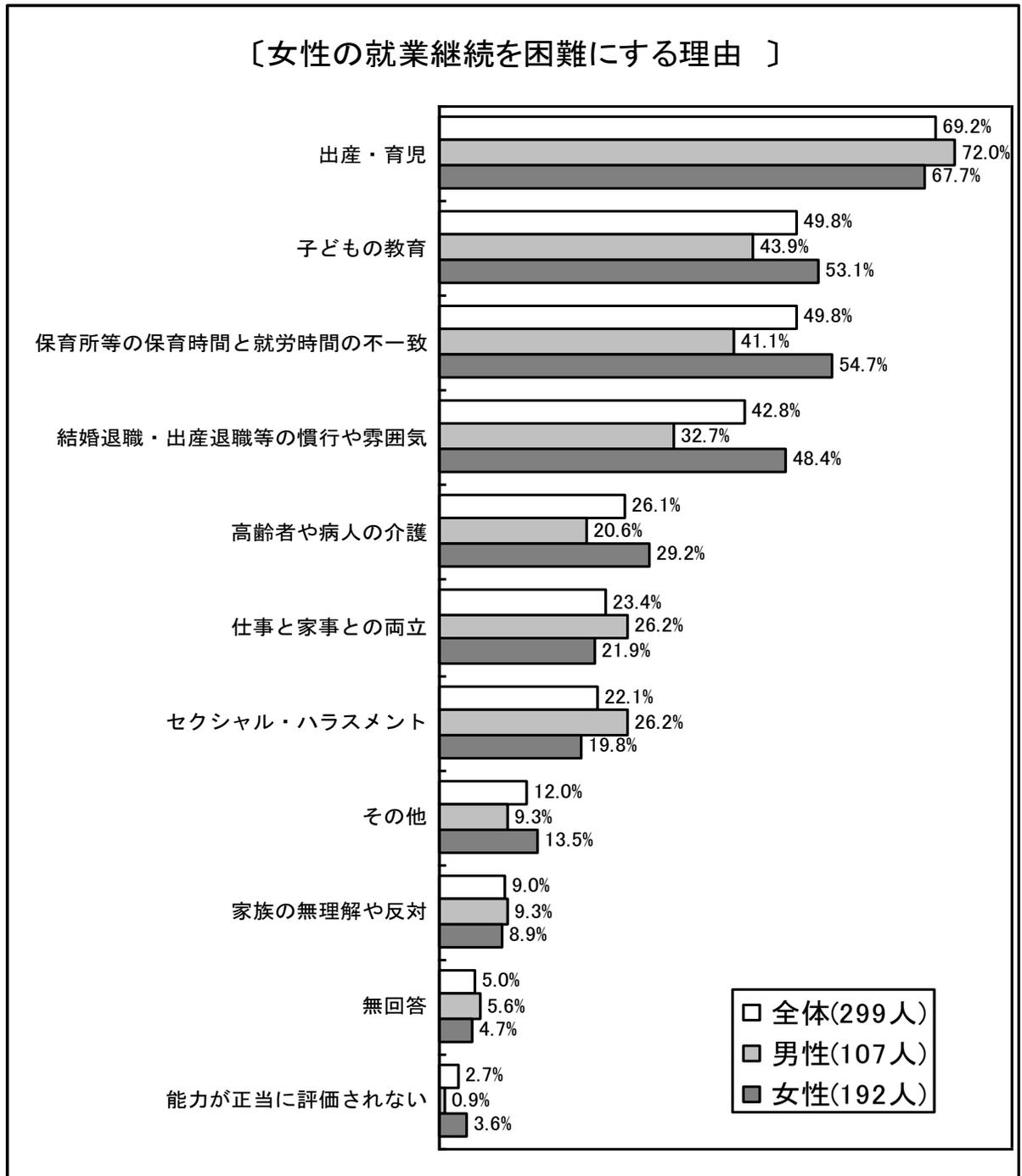
〔 女性と職業 〕



平成22年度(薩摩川内市調査)

問3 女性が、職業をもち働き続けることを、困難にしたり障害になるとお考えになることはどのようなことでしょうか。(複数選択)

〔傾向〕 男女ともに、その理由として前回と同じ理由が上位の4つを占めていたが、「結婚退職・出産退職等や雰囲気」は前回より10%近く上昇しており、現在の雇用環境の悪化等が影響していると思われる。



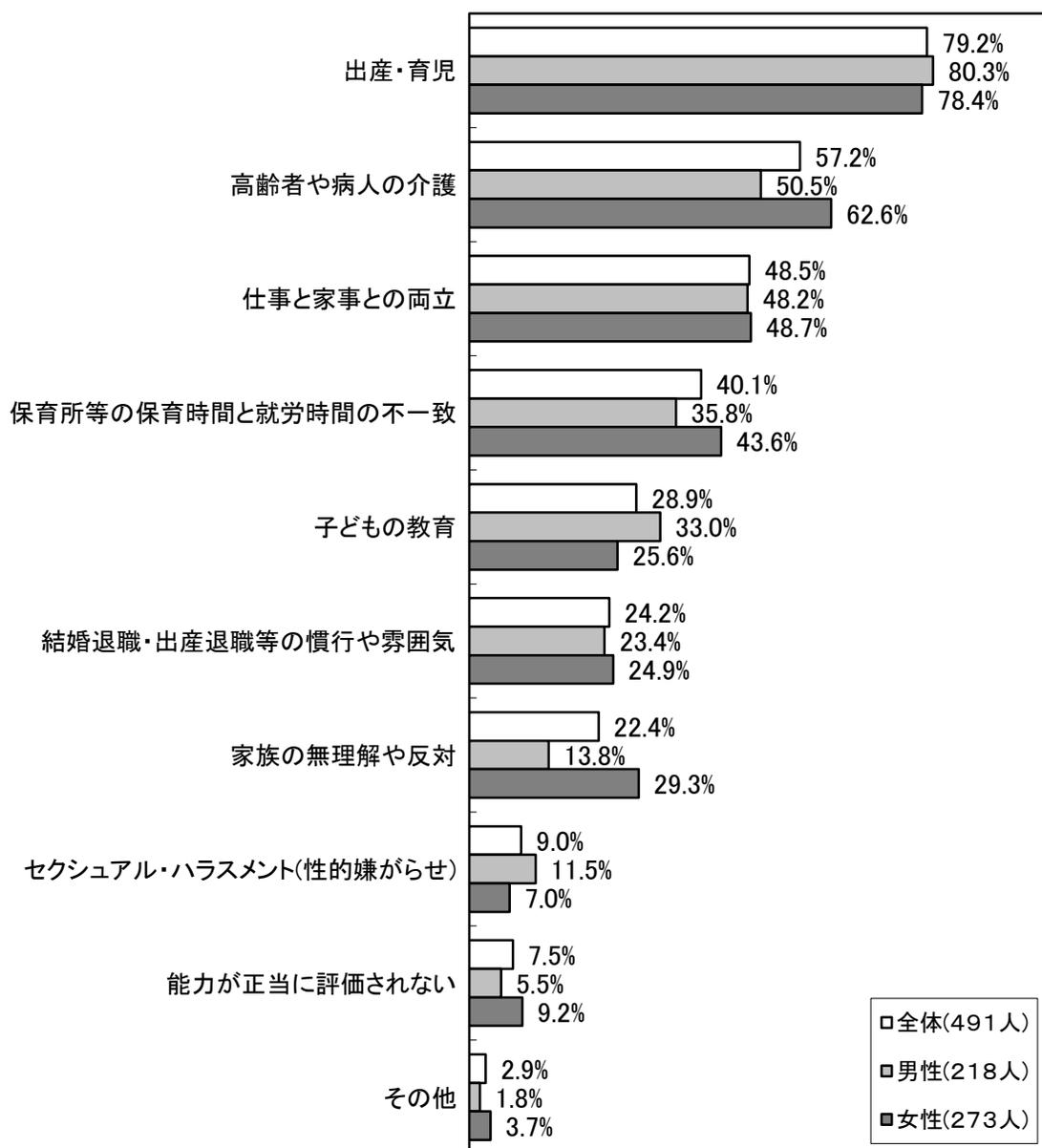
平成26年度(薩摩川内市調査)

問3 女性が、職業をもち働き続けることを、困難にしたり障害になるとお考えになることはどのようなことでしょうか。(複数選択)

〔傾向〕 男女ともに、その理由として「出産・育児」「高齢者や病人の看護」「仕事と家事との両立」「子どもの教育」をあげている。前回より「高齢者や病人の介護」が2倍以上上昇しており、子育てとともに就業継続への不安要因となっている。

年代別の差はあまりみられないが、性別でみると、介護にかかる女性への負担や家族の無理解や反対や就業継続を困難にしている様子が伺える。

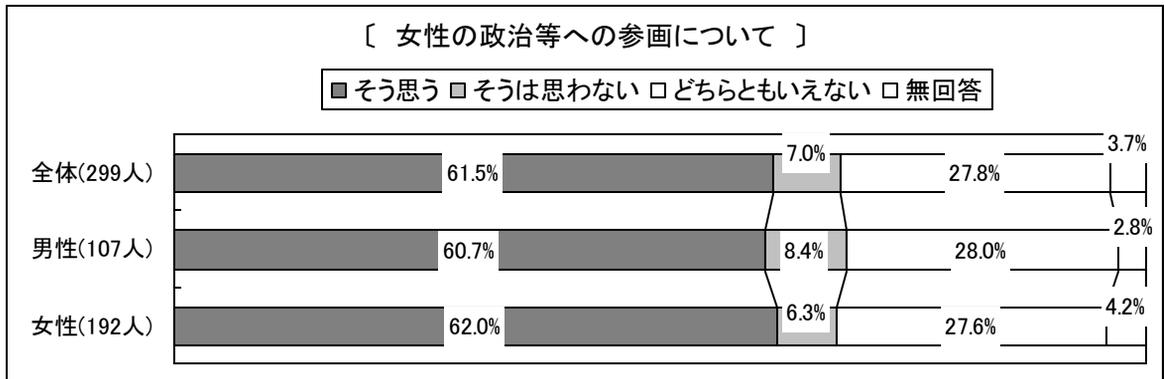
〔女性の就業継続を困難にする理由〕



平成22年度(薩摩川内市調査)

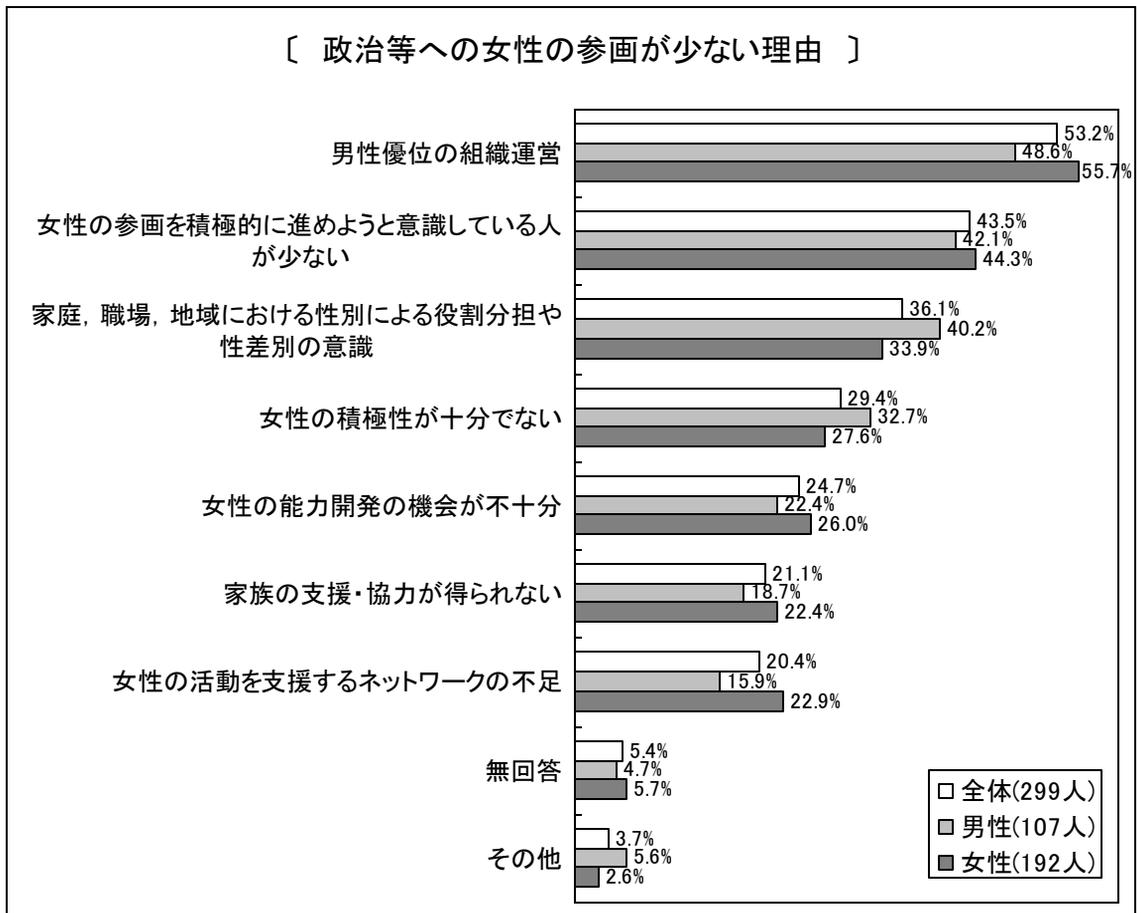
問4 あなたは、女性が国会議員や県議会議員、市議会議員などの公職に就いて、政策などの立案や決定に女性の意見をもっと反映するようにした方がよいと思われませんか。

〔傾向〕 男女ともに「そう思う」とする考え方が前回同様最も多く、61.5%という高い割合を示した。



問5 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思われませんか。(複数選択)

〔傾向〕 「男性優位の組織運営」が男女とも50%ほどいる。また、30%を越えたものが3項目あり、政治や行政の場において、ジェンダーに敏感な視点が求められている。



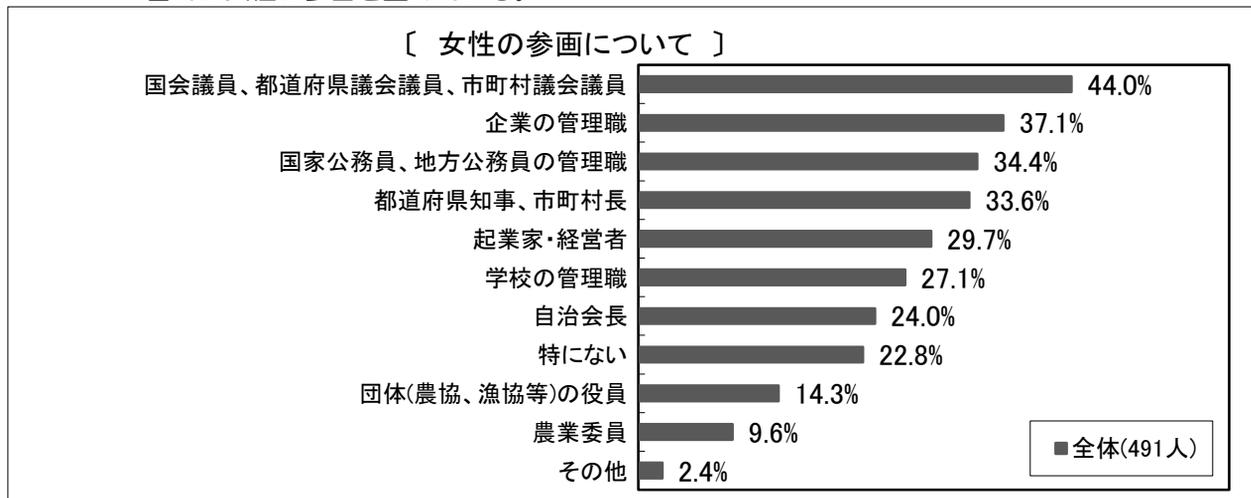
平成26年度(薩摩川内市調査)

新設

2 『女性の参画について』

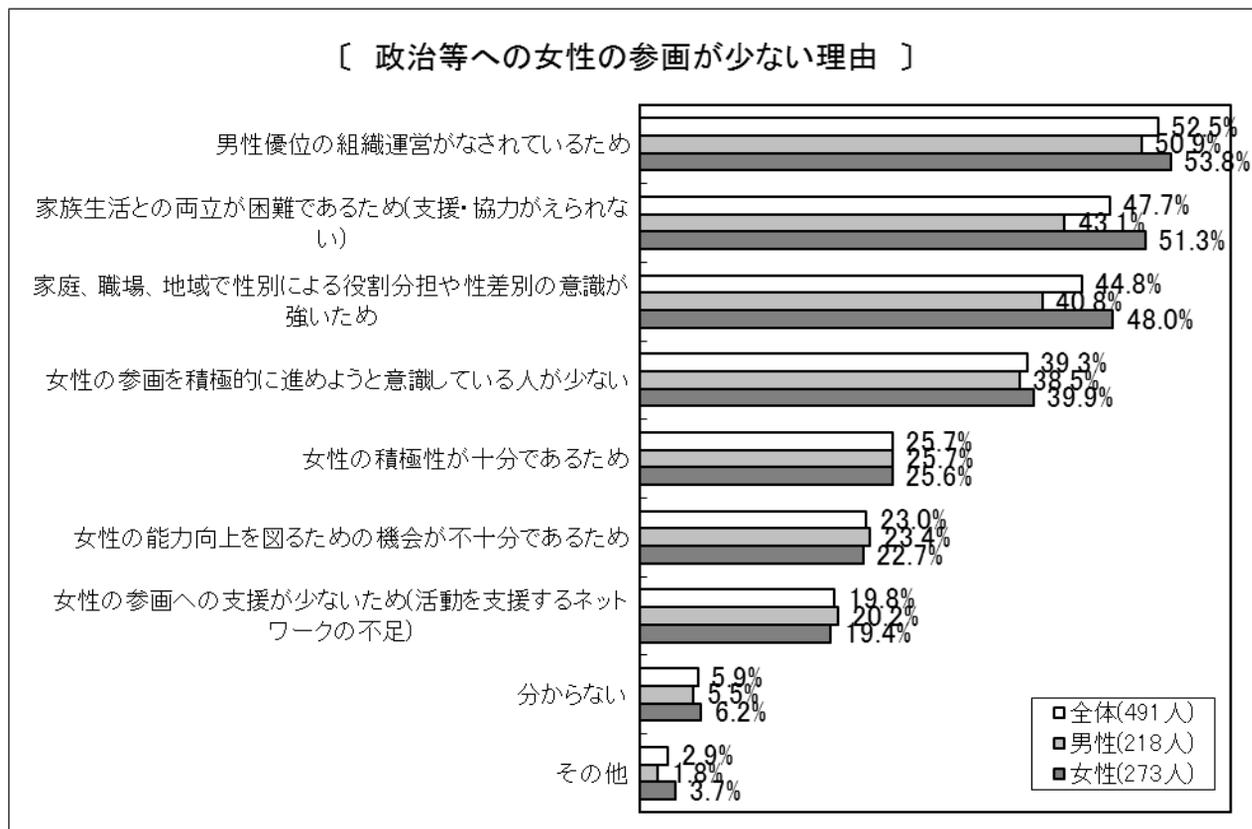
問4 あなたは、次にあげるような職業や役職において、今後、女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。

〔傾向〕 市議会議員等が最も多く約4割で、次いで企業・自治体の管理職、首長に女性が増えることを望んでいる。性・年代別にみると50～60歳代男性と40～60歳代女性が多方面での女性の参画を望んでいる。



問5 「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に男性に比べて女性の参画がまだまだ少ない」と言われていますが、あなたは、その原因は何だと思えますか。(複数選択)

〔傾向〕 「男性優位の組織運営」が男女とも5割を占め、次いで「家庭生活との両立が困難」が上位となっている。また、女性の48%が「性別による役割分担や性差別意識」をあげており、前回より14.1ポイント上昇している。



平成26年度(薩摩川内市調査)

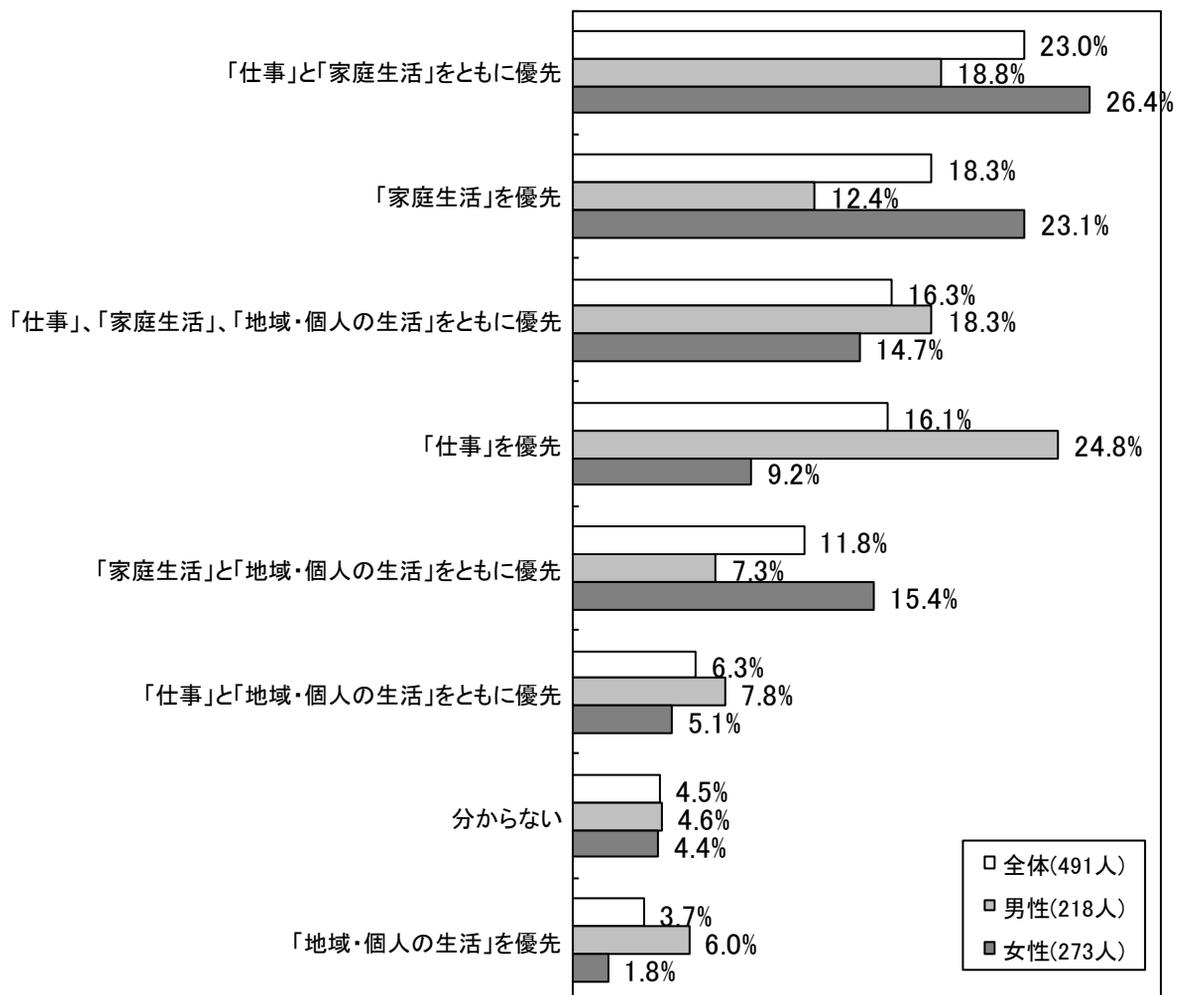
新設

3 『仕事と家庭・地域への取組について』

問6 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合いなど)の優先度について、あなたはどのようにお考えですか。

〔傾向〕 男女で優先度に違いが見られる。男性は上位から「仕事」「仕事と家庭生活をともに」「仕事、家庭生活、地域・個人の生活をともに」となっている。女性は上位から「仕事と家庭生活をともに」「家庭生活」「家庭生活と地域・個人の生活をともに」となっている。男性は「仕事」、女性は「家庭」のキーワードを含むものが上位を占めている。「地域・個人の生活」のキーワードを含む項目では、選択した人のいない年代層もある。

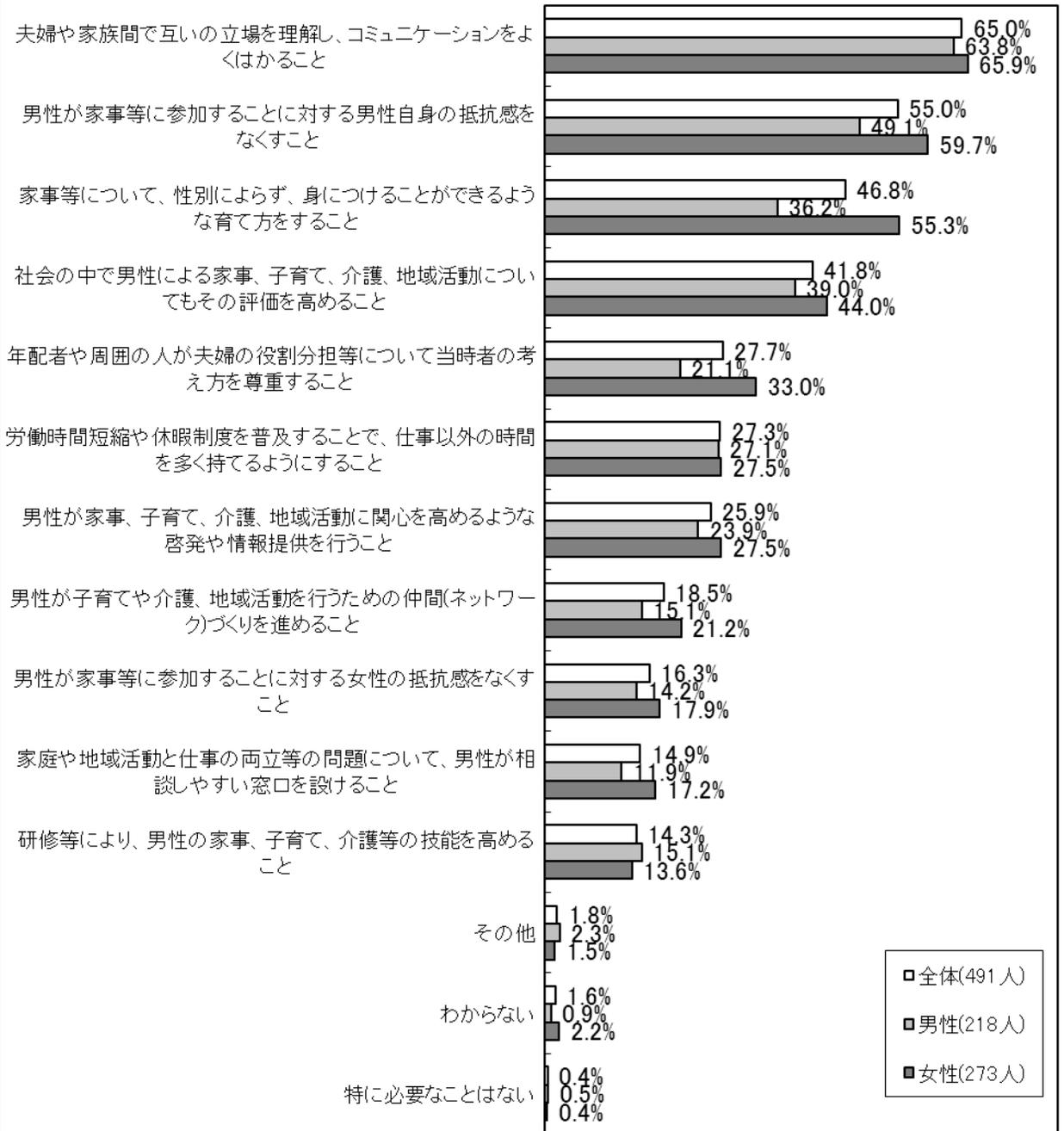
〔「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について〕



問7 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

〔傾向〕 全体では65%の人が「夫婦や家族間での互いの立場を理解しコミュニケーションをよくはかること」と考えており、家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくしたり、評価を高めたり、性別によらず家事等を身に付けることができるような育て方をする必要性があるとの考えが多い。

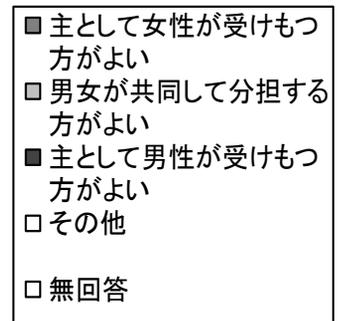
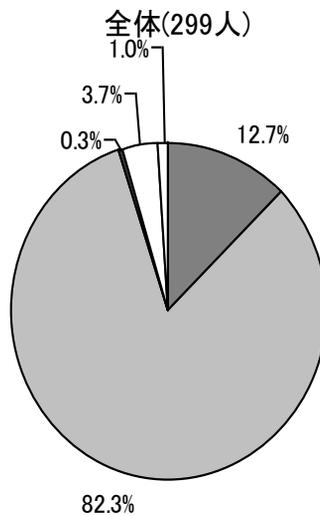
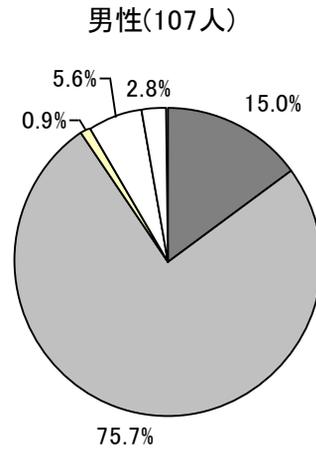
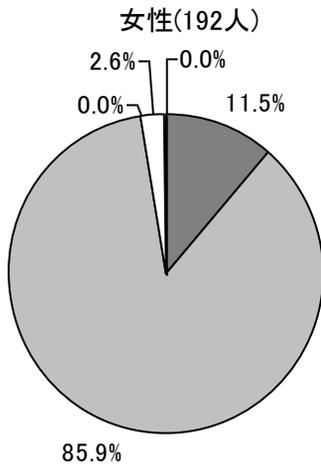
〔 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動等に参加していくためには、どんなことが必要ですか 〕



平成22年度(薩摩川内市調査)

問8 あなたは、高齢者の介護をする場合に、家庭内での分担について、どのように考えますか。

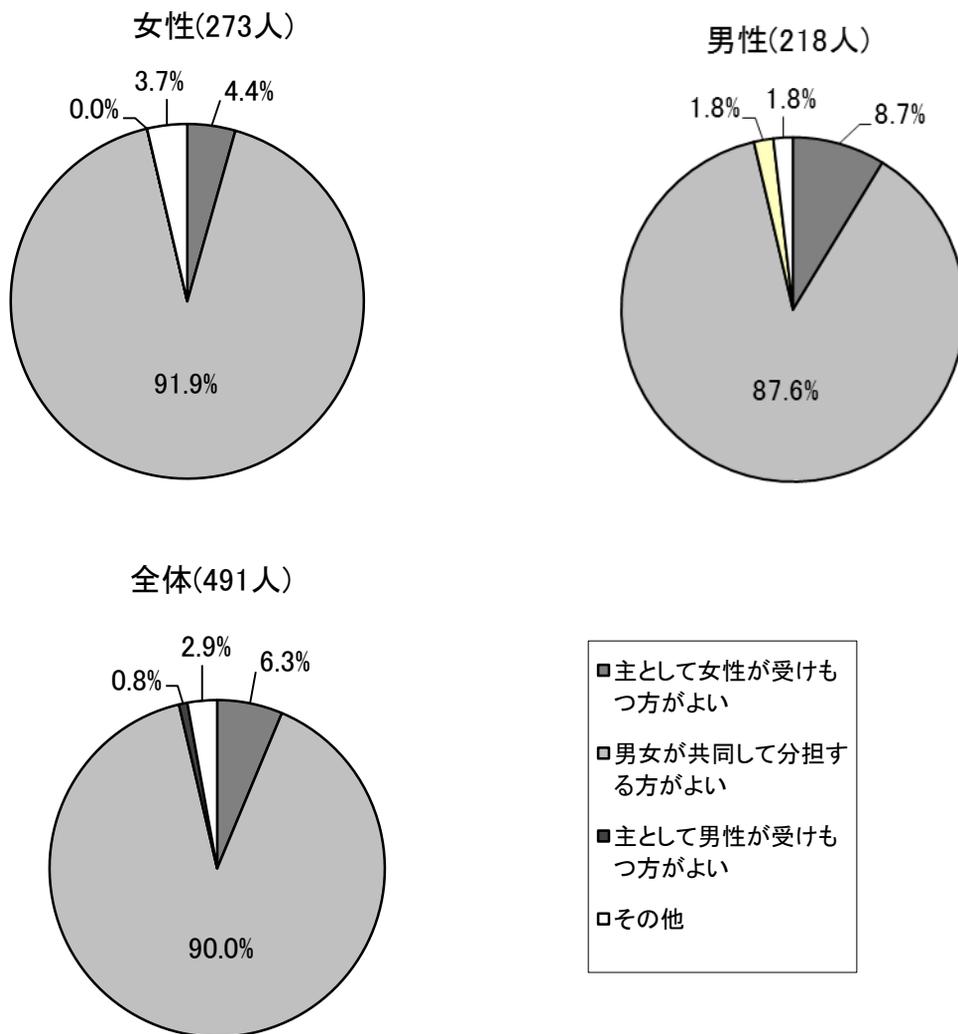
〔傾向〕 「男女が共同して分担する方がよい」が全体で80%を越えて圧倒的に多い。5%程度ではあるが「主として女性が受けもつ方がよい」と考えている男性が多かった。



平成26年度(薩摩川内市調査)

問8 あなたは、高齢者の介護をする場合に、家庭内での分担について、どのようにお考えになりますか。

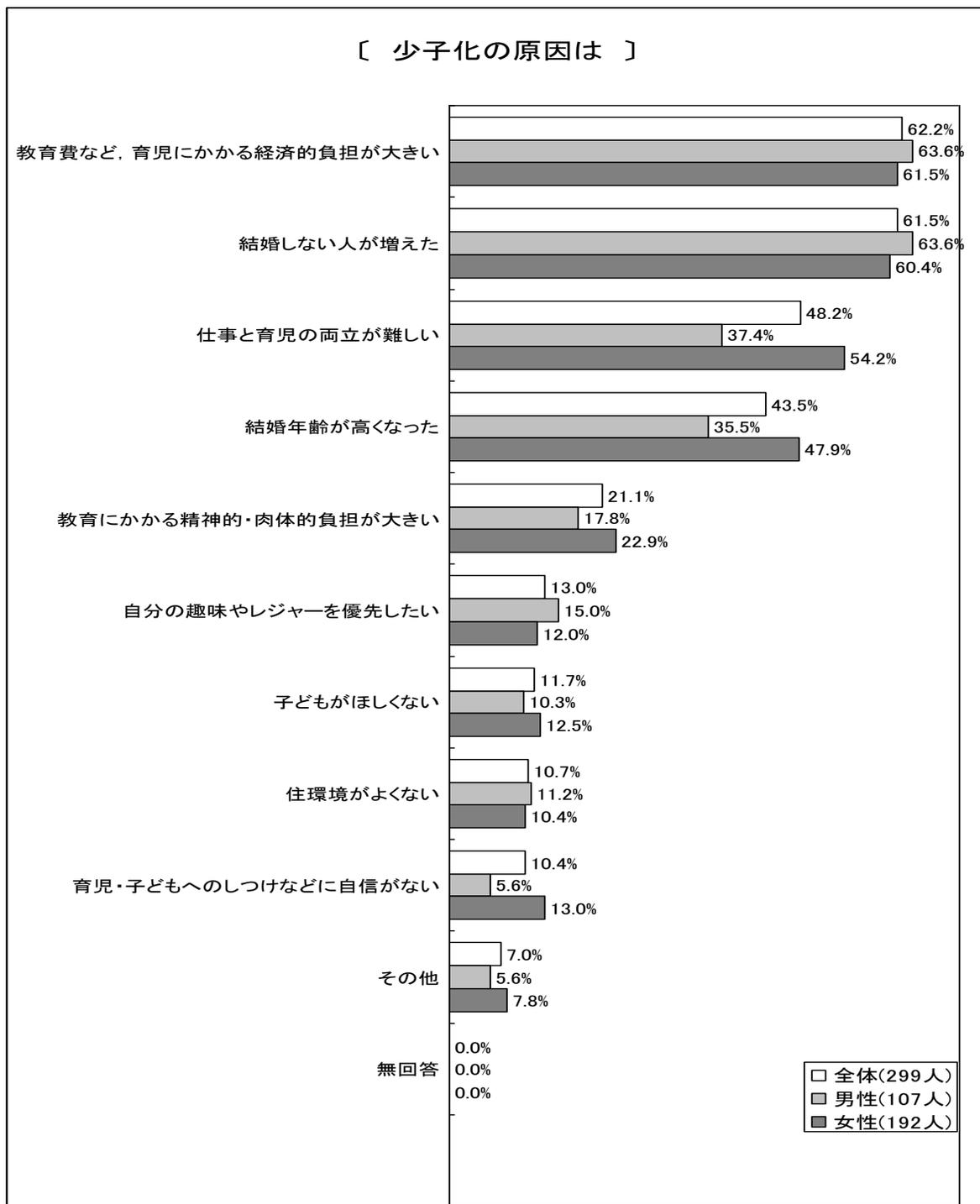
〔傾向〕 「男女が共同して分担する方がよい」が全体で9割と圧倒的に多い。「主として女性が受けもつ方がよい」との考えは男性の方が女性より約2倍多い。



平成22年度(薩摩川内市調査)

問8 現在少子化が進んでいますが、あなたはその原因は何だと思われますか。(複数選択)

〔傾向〕 男女共に少子化に対する考えはほぼ一致している。経済的負担の大きいことや、結婚しない人が増えたことは、自分らしい生き方の選択ができる社会ができつつあることや、ついで仕事と育児の両立の難しさなど、子育てしにくい社会環境であることがうかがえる。また、前回の調査結果より「結婚しない人が増えた」が10%程度上昇している。

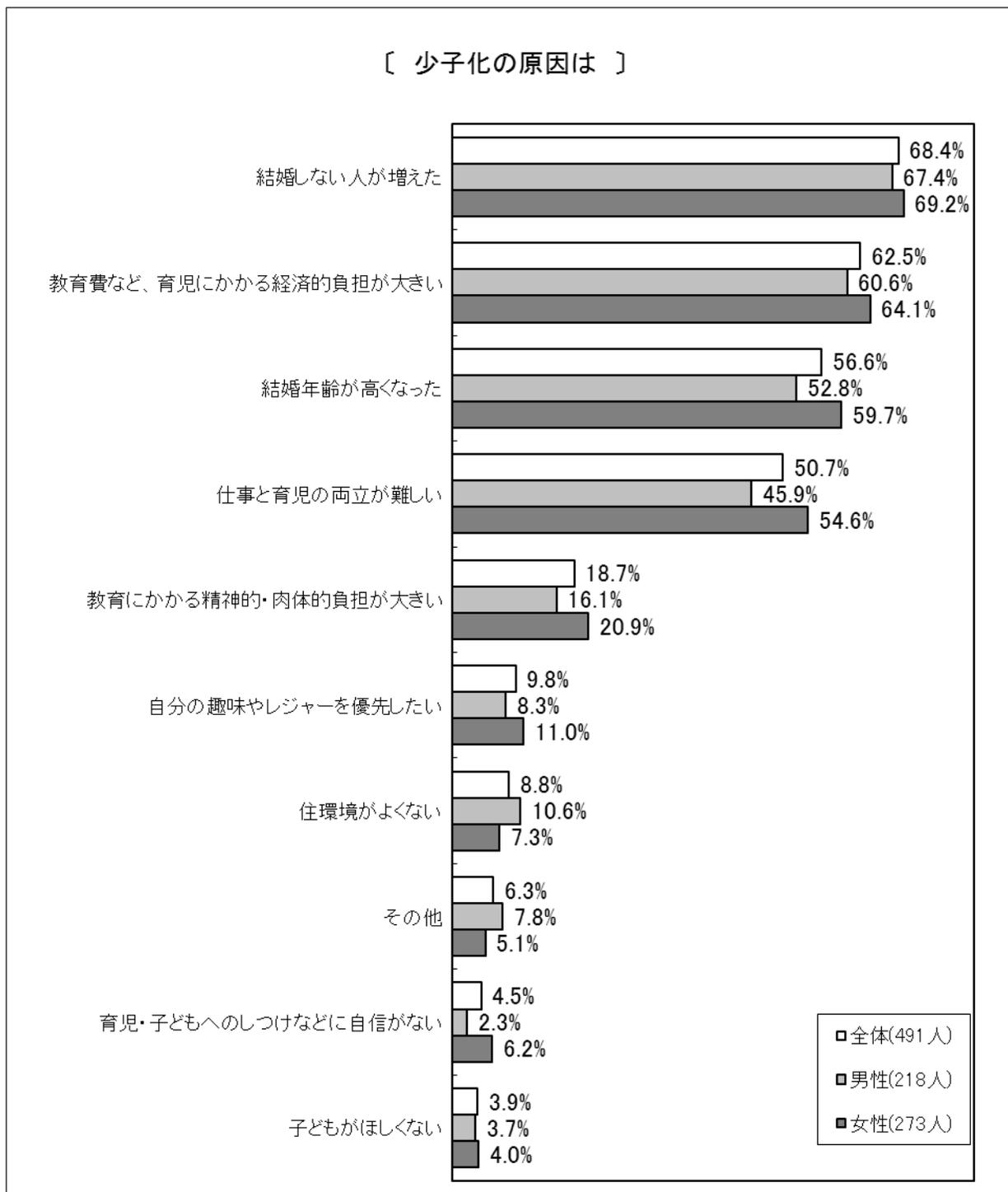


平成26年度(薩摩川内市調査)

4 『少子化について』

問9 現在少子化が進んでいますが、あなたはその原因は何だと思われますか。(複数選択)

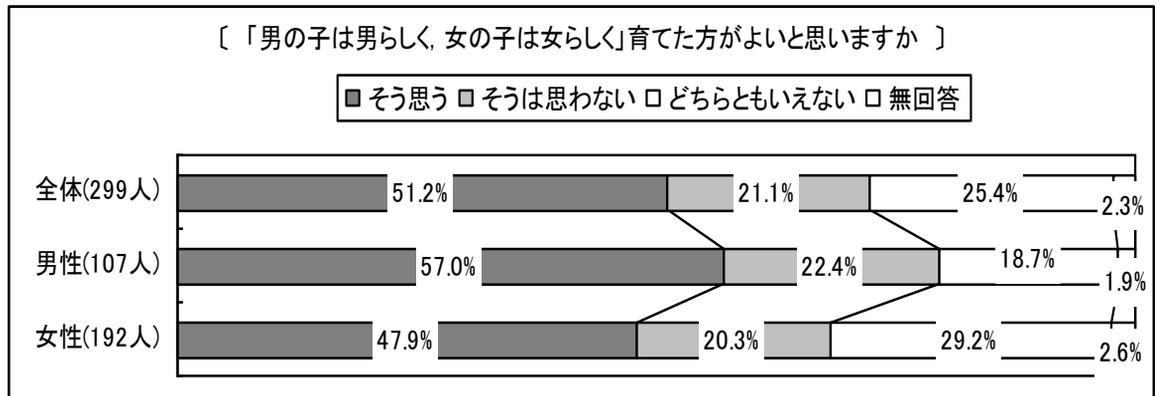
〔傾向〕 男女共に少子化の原因に対する考えはおおよそ一致している。結婚しない人が増えたことは、自分らしい生き方の選択ができる社会ができつつあることの反面、若年層の低所得の問題や仕事と育児の両立の難しさなど、子育てしにくい社会環境にあることがうかがえる。



平成22年度(薩摩川内市調査)

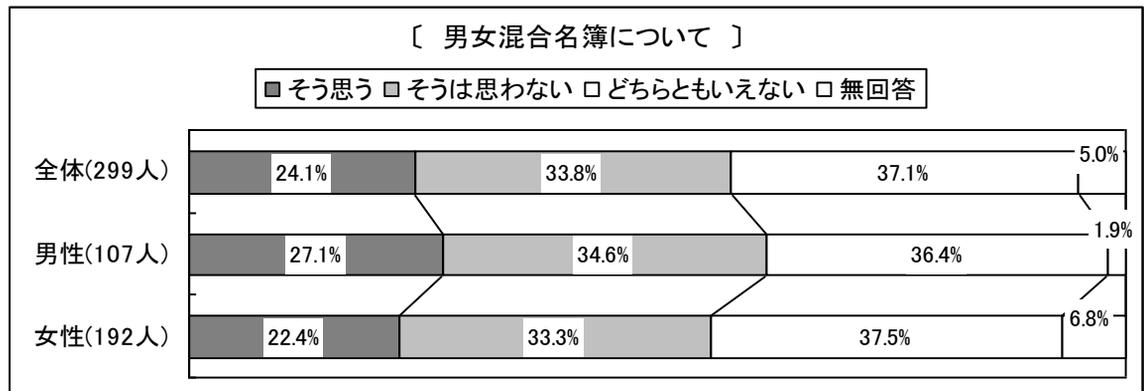
問10 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てたほうがよいと思いますか。

〔傾向〕 前回の結果より男性の「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てたほうがよいと思っている割合が特に男性において13%程度減少している。



問11 児童・生徒の名簿は、男女混合名簿がよいと思いますか。

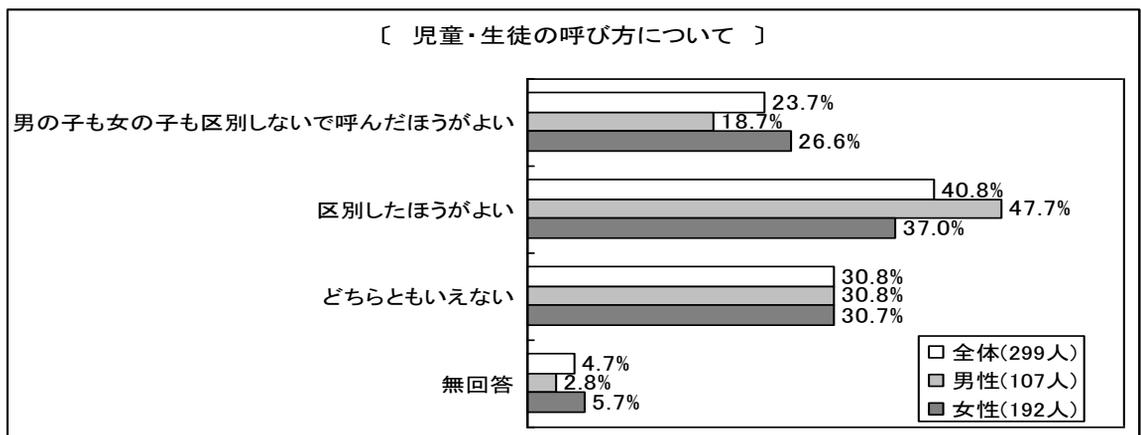
〔傾向〕 男女ともに、混合名簿のほうがよいと思っている層よりも否定や中立の割合が高くなっている。



問12 児童・生徒を呼ぶとき、男の子は“君”、女の子は“さん”をつけて呼ぶことについてどう

思いますか。

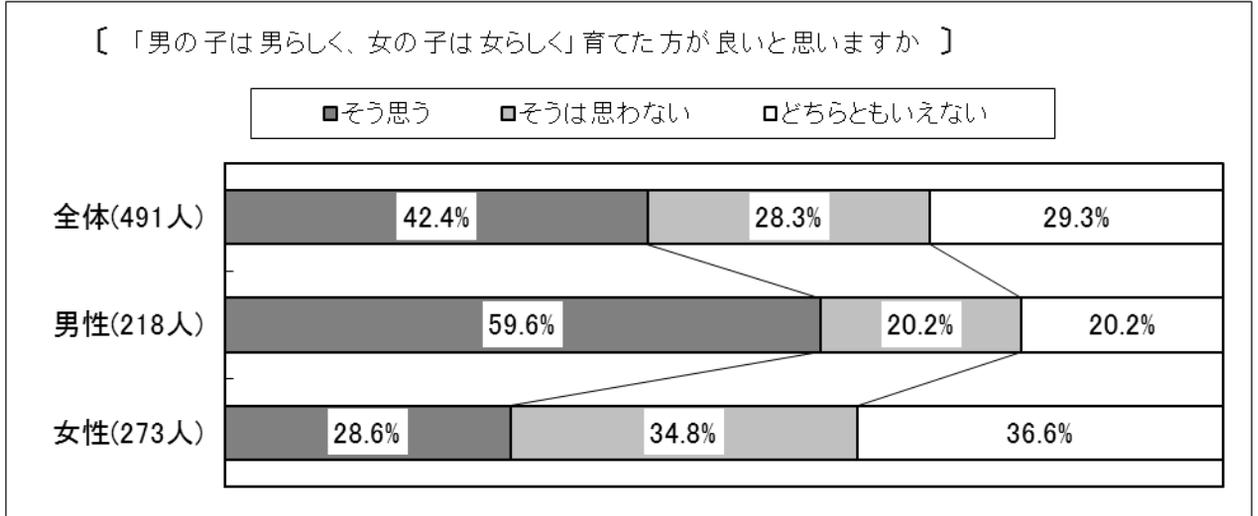
〔傾向〕 育て方と同様、区別して呼んだほうがよいと思う人が、半数近くいる。



平成26年度(薩摩川内市調査)

問10 あなたは、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てたほうがよいと思いますか。

〔傾向〕 男性の6割が、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てたほうがよいと思っており、前回より微増している。女性の回答は三分割されており、前回より「そう思う」が19.9ポイント下がっている。



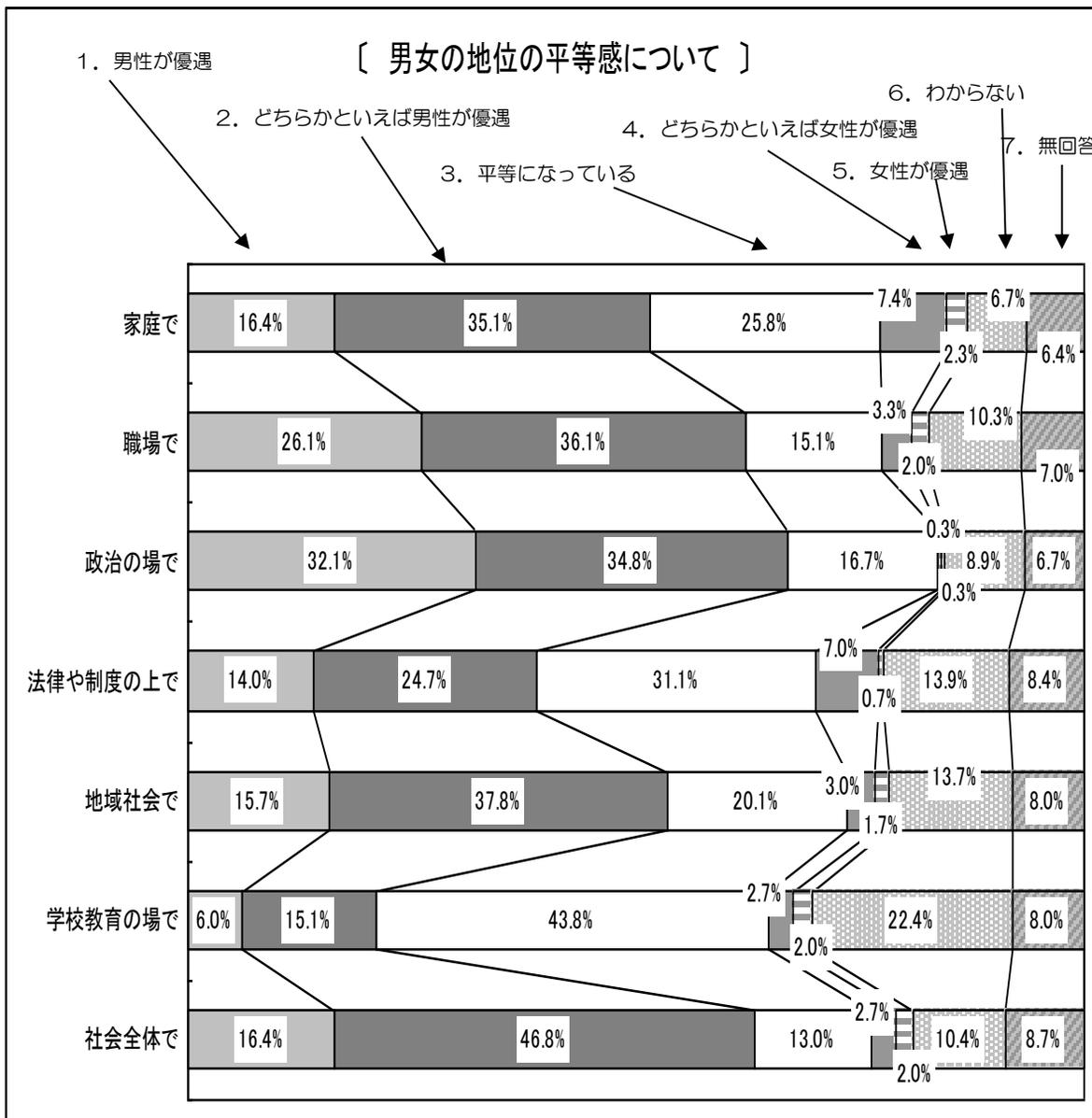
平成22年度(薩摩川内市調査)

3. 『男女の地位の平等について』

問13 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思われますか。

〔傾向〕 前回の調査とほぼ同じ傾向である。しかし、残り5項目では1と2を合わせて50%以上の回答で男性が優遇されているとする割合が高かった。なかでも、「政治の場」は合計で66.9%と最も高い割合を示した。

全体的に県の調査と比べても、本市では男性の優遇感が強い結果となった。

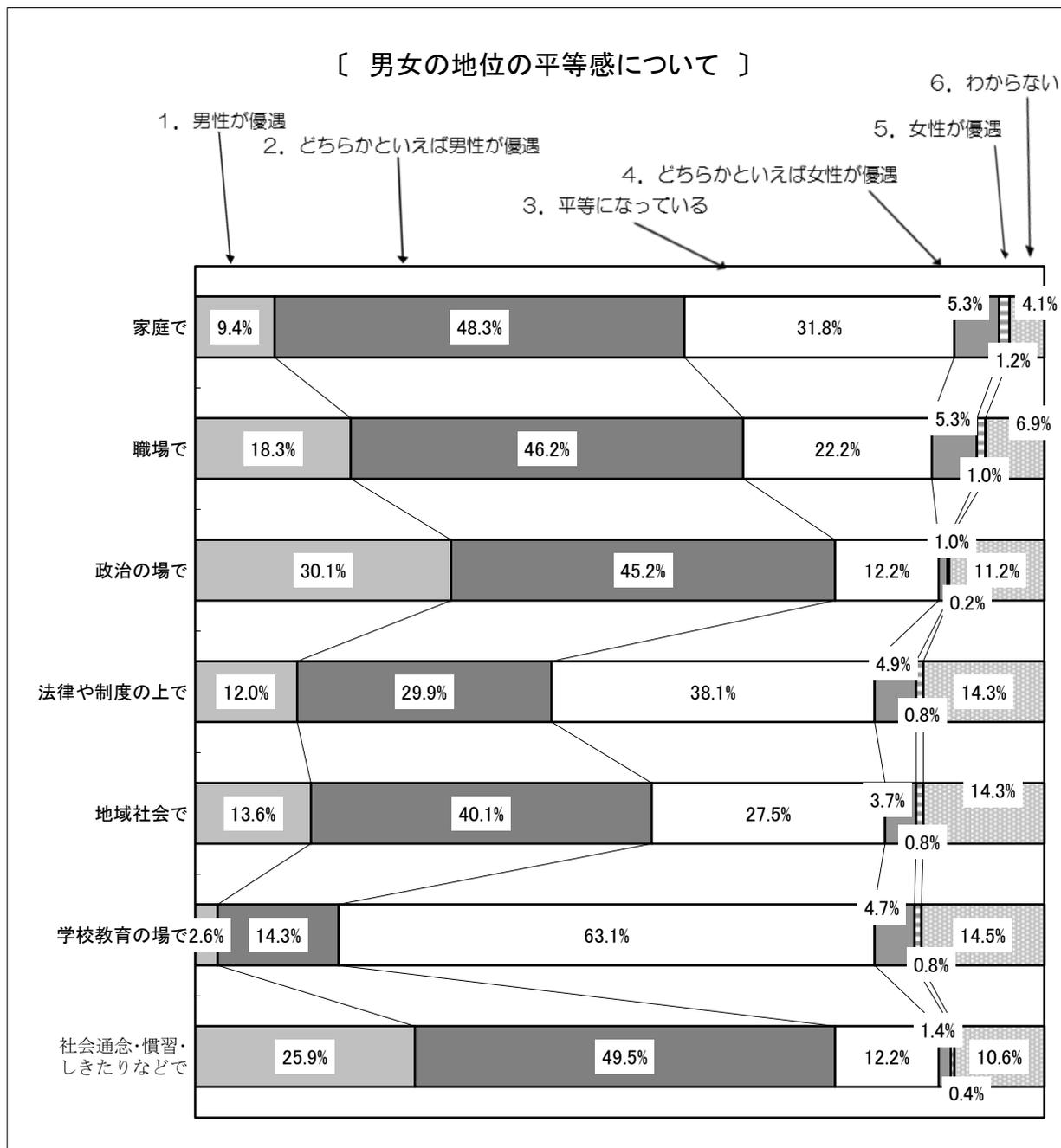


平成26年度(薩摩川内市調査)

5. 『男女の地位の平等について』

問11 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思えますか。

〔傾向〕 前回調査と比較すると、学校教育の場においては平等感が20ポイント上昇している。しかし、他の項目では平等感は低く、特に「社会通念・慣習・しきたりなど」、「政治の場」においては7割強の人が男性が優遇されていると感じており、依然として男性の優遇感が強い結果となった。

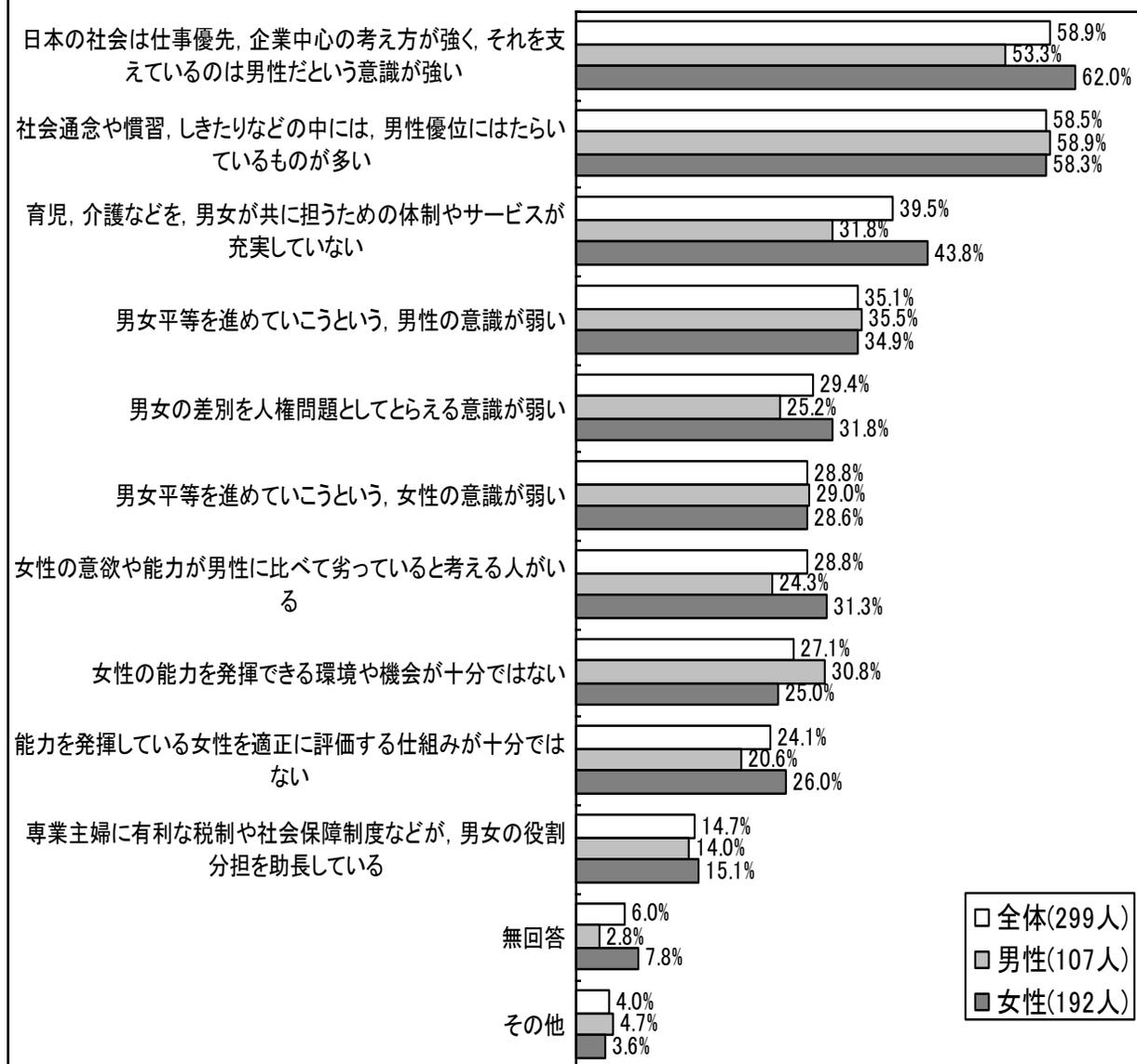


平成22年度(薩摩川内市調査)

問14 あなたは、男女共同参画社会が進まない原因は何だと思われますか。(複数選択)

〔傾向〕 男女ともに、固定的な役割分担意識やこれに基づく社会通念や慣行が、その阻害要因であると考えている。

〔 男女共同参画が進まない原因 〕

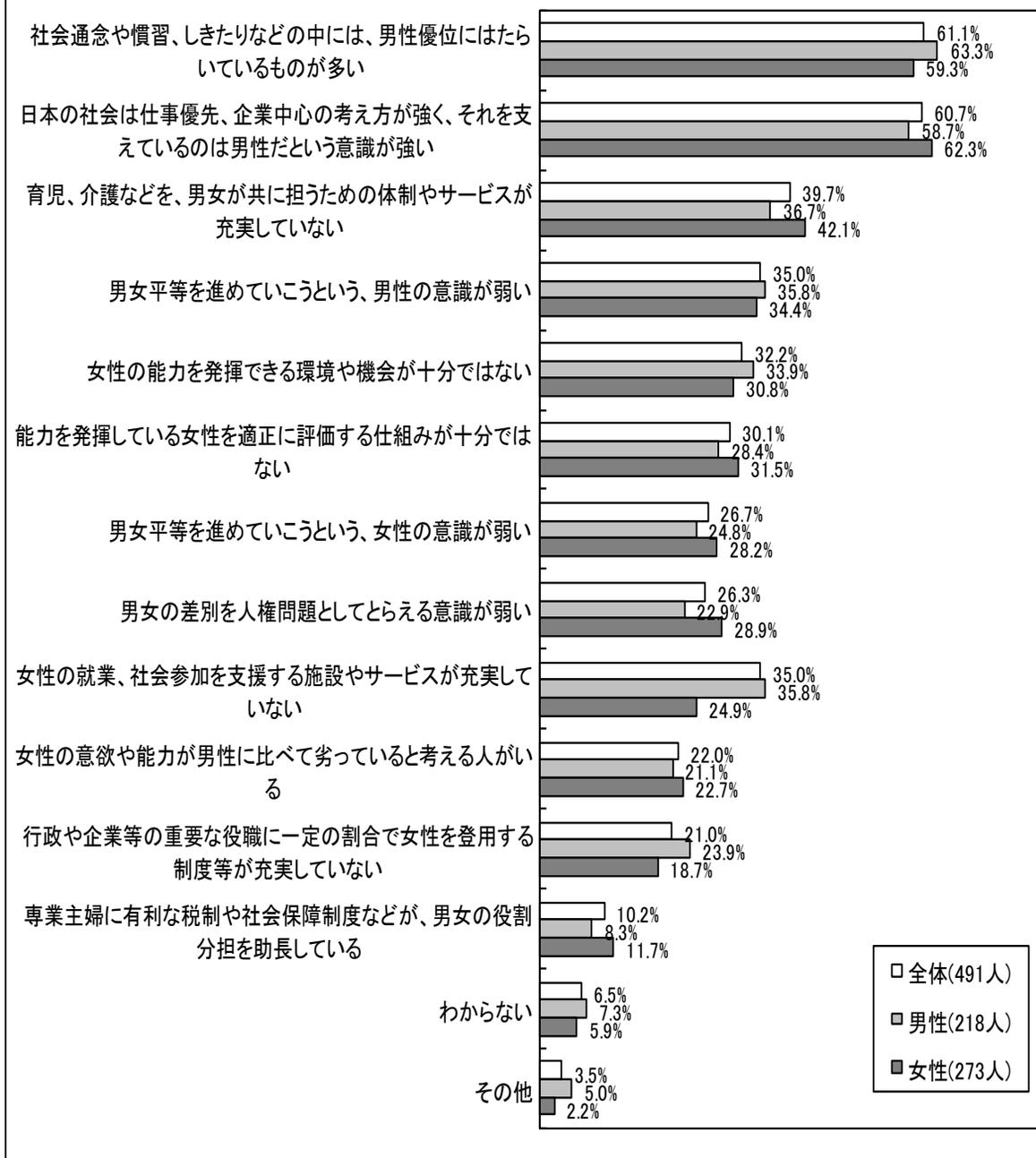


平成26年度(薩摩川内市調査)

問12 あなたは、男女共同参画社会の形成を阻害する要因は何だと思われますか。(複数選択)

〔傾向〕 男女ともに、固定的な役割分担意識やこれに基づく社会通念や慣行が、その阻害要因であると考えている。次いで、女性の就業・社会参画の支援や育児・介護などを男女が共に担うための体制やサービスが十分でないと考えている。

〔 男女共同参画社会の形成を阻害する要因 〕

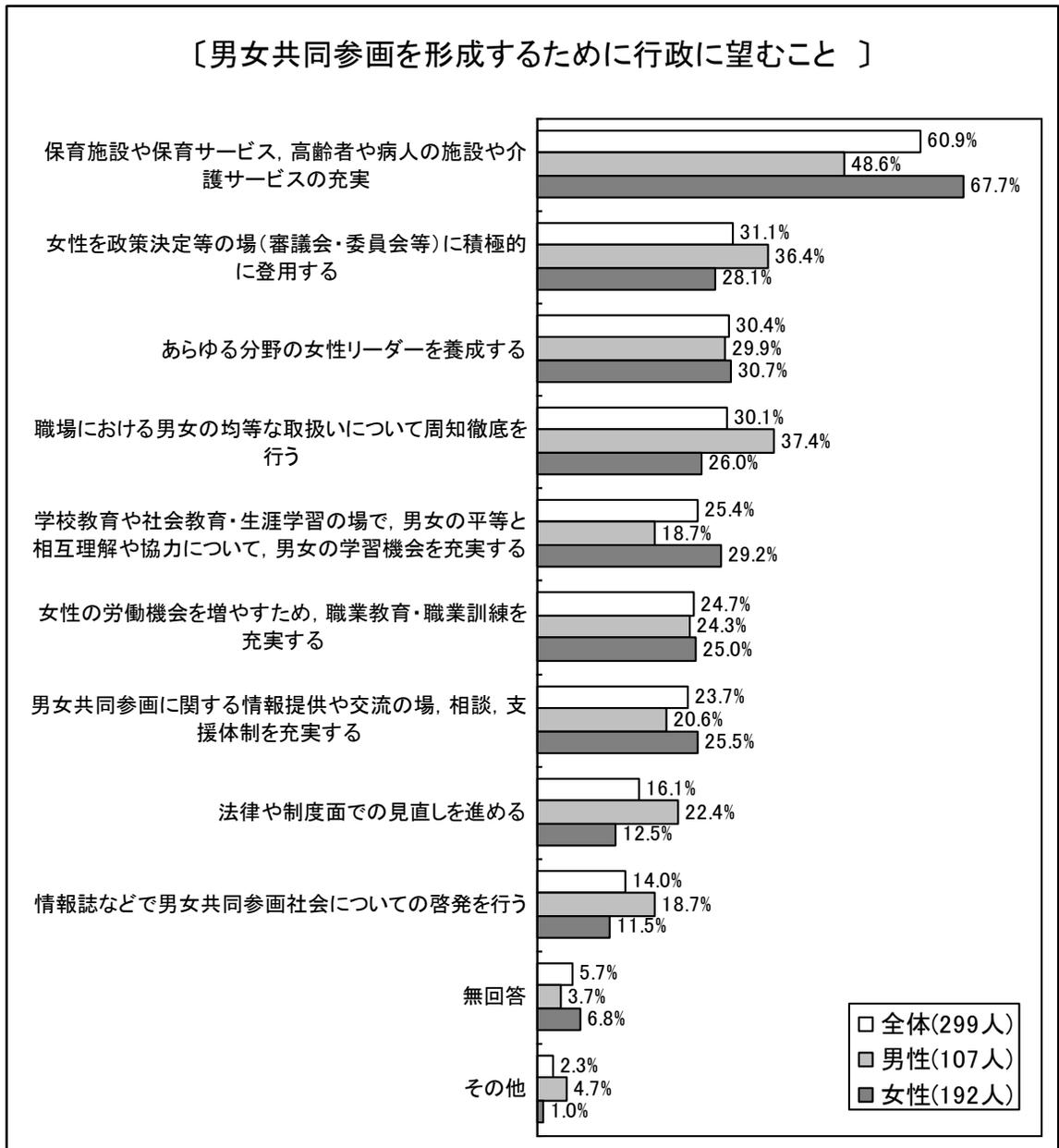


平成22年度(薩摩川内市調査)

4. 『男女共同参画社会の形成に関する意識について』

問15 男女共同参画社会を形成するために、今後薩摩川内市はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(複数選択)

〔傾向〕 全体では「育児・介護サービスの充実」と「女性の積極的登用」が上位を占めている。これを男女別に見ると、男性、女性ともに「育児・介護サービスの充実」が非常に高い。次いで、男性は女性の登用や職場における均等な取扱いを望み、女性は、リーダーの育成や女性自ら学習する機会を望んでいることがうかがえる。

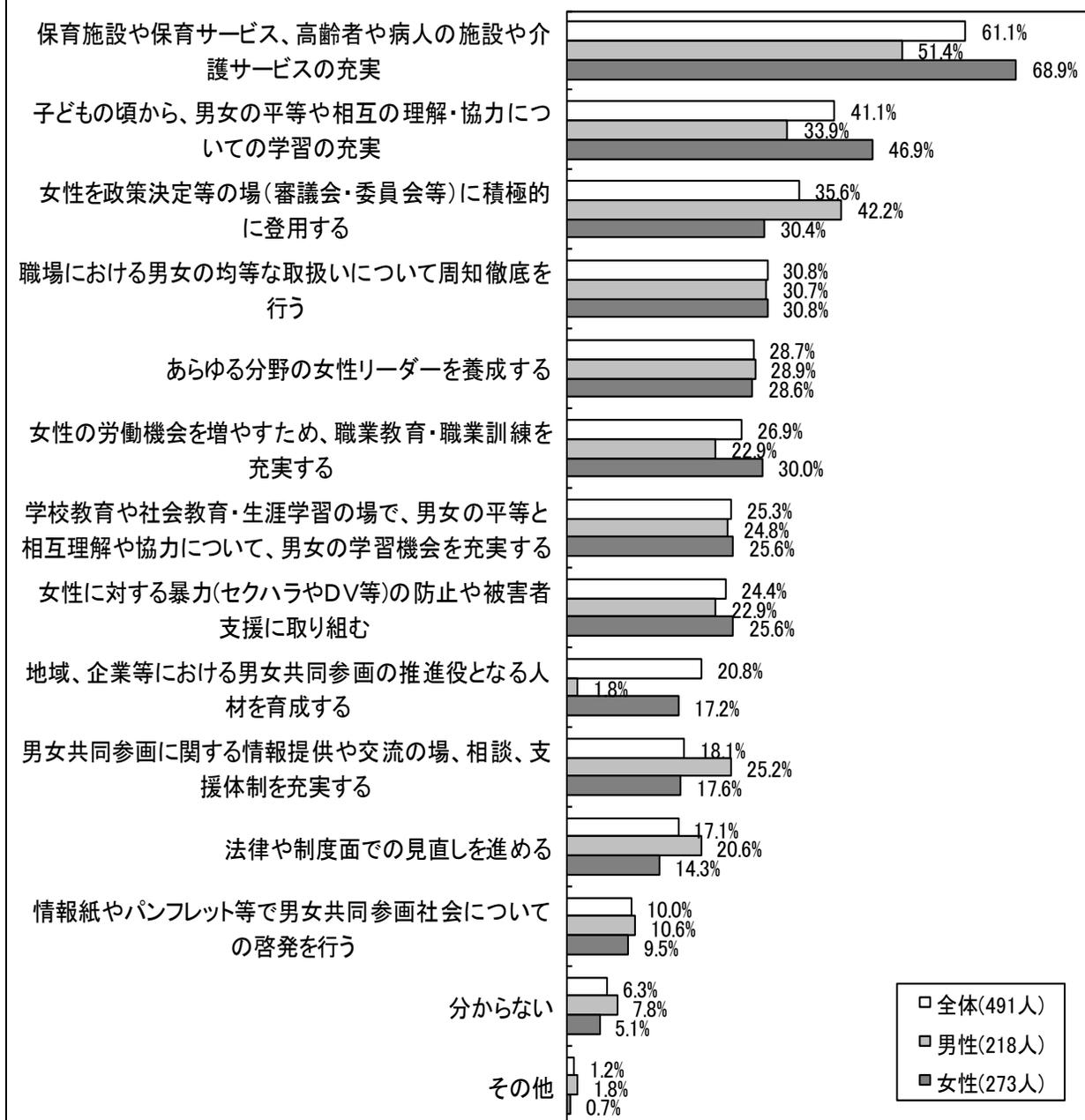


平成26年度(薩摩川内市調査)

問13 男女共同参画社会を形成するために、今後薩摩川内市はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(複数選択)

〔傾向〕 全体で6割が「育児・介護サービスの充実」をあげている。次いで「子どもの頃からの学習の充実」「女性の積極的登用」となっている。「育児・介護サービスの充実」及び「子どもの頃からの学習の充実」については、男性より女性が10ポイント以上高く、育児や介護の負担が女性に重くかかっている実態と女性が事実上の男女平等を求めていることがうかがえる。また男性は、女性参画への支援が必要であると考えている。

〔 行政に望むこと 〕

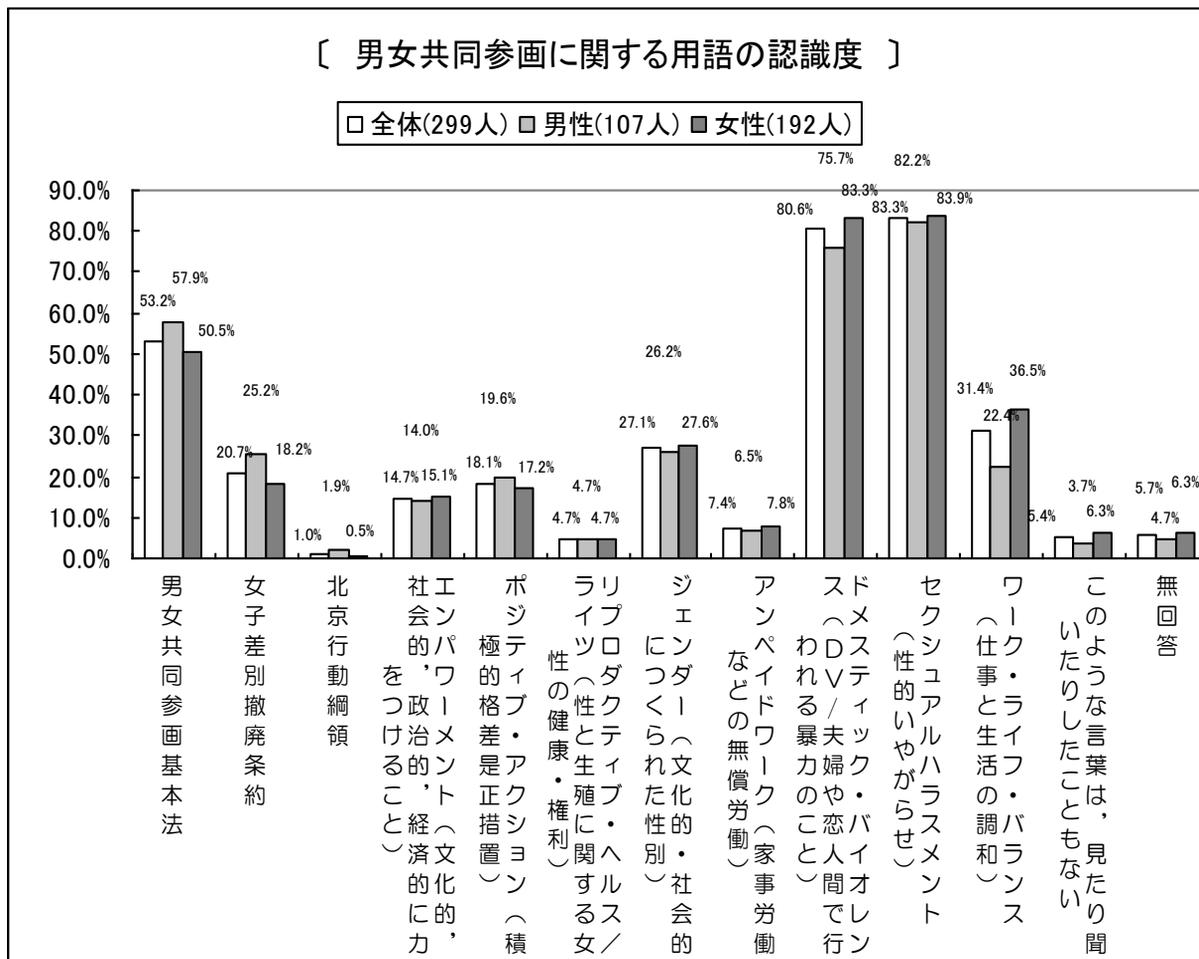


平成22年度(薩摩川内市調査)

問16 次の用語のうち、あなたが見たり聞いたりしたのがありますか。(複数選択)

〔傾向〕 法制化されたためか「セクシュアル・ハラスメント」と「ドメスティック・バイオレンス」、「男女共同参画社会基本法」についての認識度が高い。「無回答」が前回より減ったのは、全体の認識度が高まったからではないか。

前回と比較すると、全体的に認識度のパーセントが高くはあるが、一般に男女共同参画に関する用語が使われているもの以外の用語は、かなり低い結果となった。これについてはより一層の啓発が必要である。



平成26年度(薩摩川内市調査)

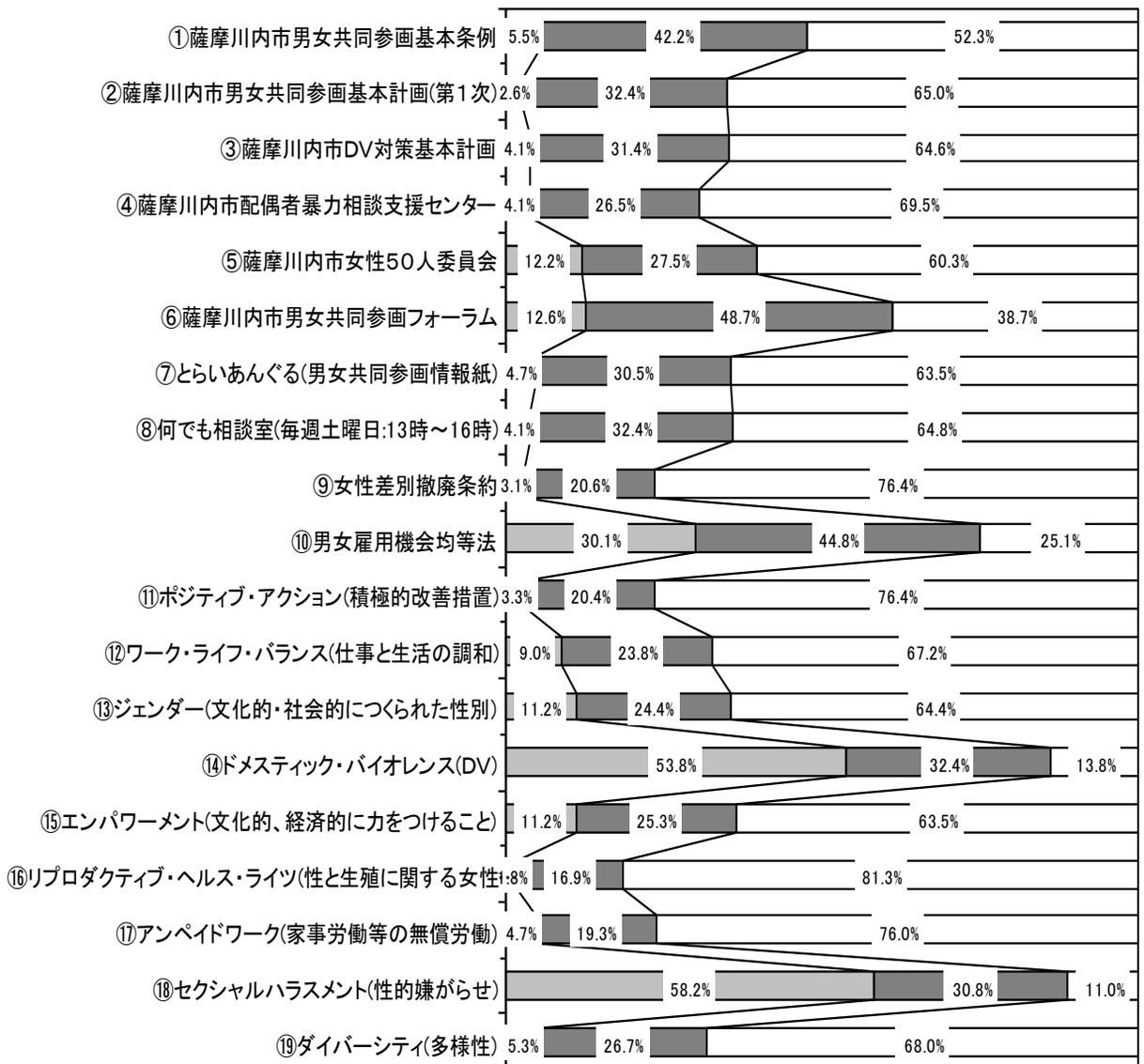
問14 あなたは、男女共同参画に関連の深い用語、事柄について知っていますか。

〔傾向〕 メディアで取り上げられることの多い「セクシュアル・ハラスメント」と「ドメスティック・バイオレンス」、「男女雇用機会均等法」については認知度が高い。
 毎年実施しているフォーラムについては61%、本市基本条例は47%、女性50人委員会は39%となっている。その他、男女共同参画に関する用語は、かなり低い認知度となっている。今後より一層の広報・啓発への工夫が必要である。

〔男女共同参画の関連用語の認知度について〕

□よく知っている □聞いたことがある □知らない

全体(491人) 男性(218人) 女性(273人)

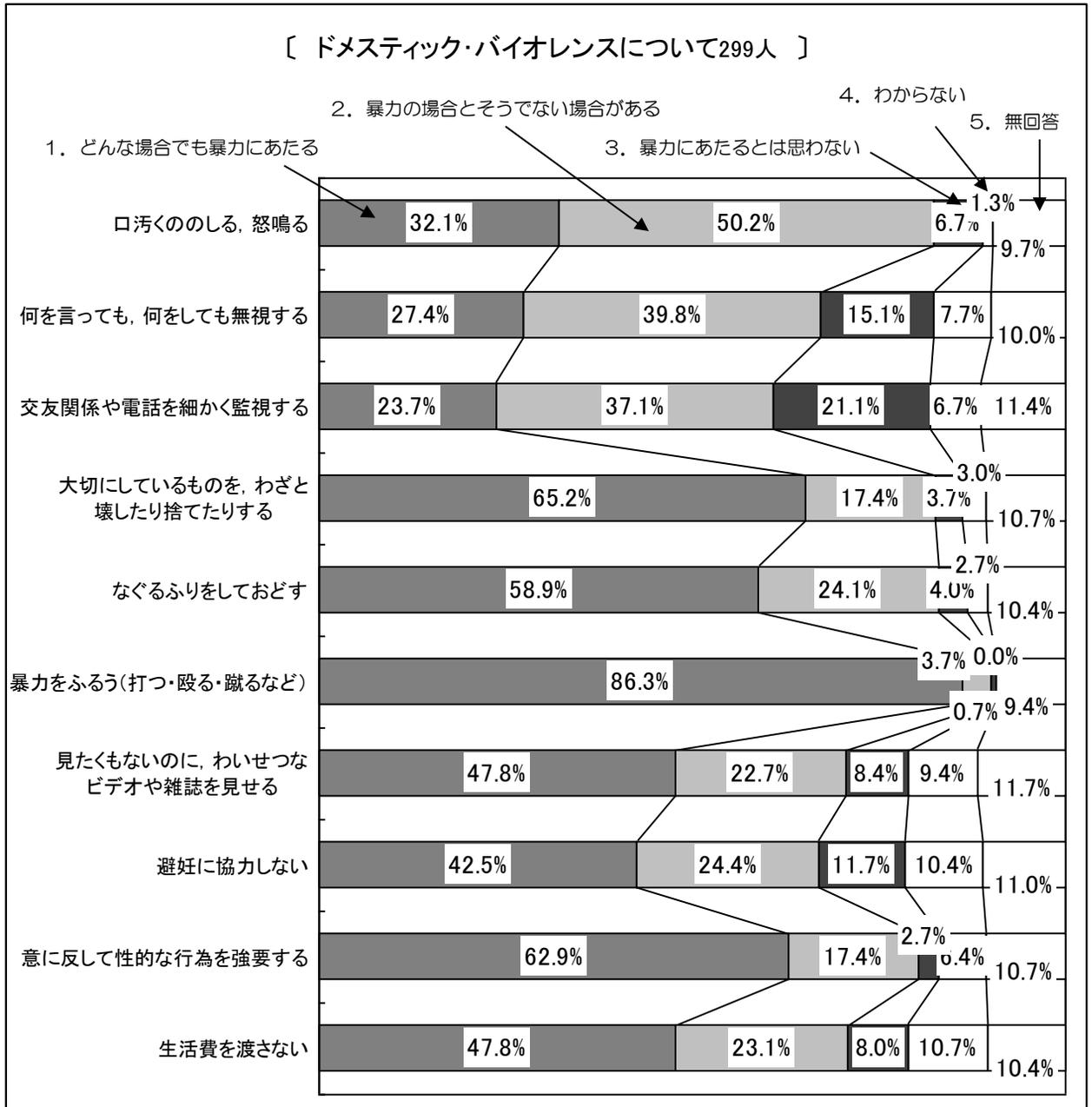


平成22年度(薩摩川内市調査)

5. 『ドメスティックバイオレンスについて』

問17 あなたは、夫婦間または親しい間柄の男女の間で行われる、次のような行為は暴力にあたると思われますか。(複数選択)

〔傾向〕 「身体的暴力」や「性的行為の強要」はどんな場合でも暴力にあたると思っているものが多いが、それ以外の精神的暴力や性的暴力などは、暴力にあたるとする認知度が低い結果となった。

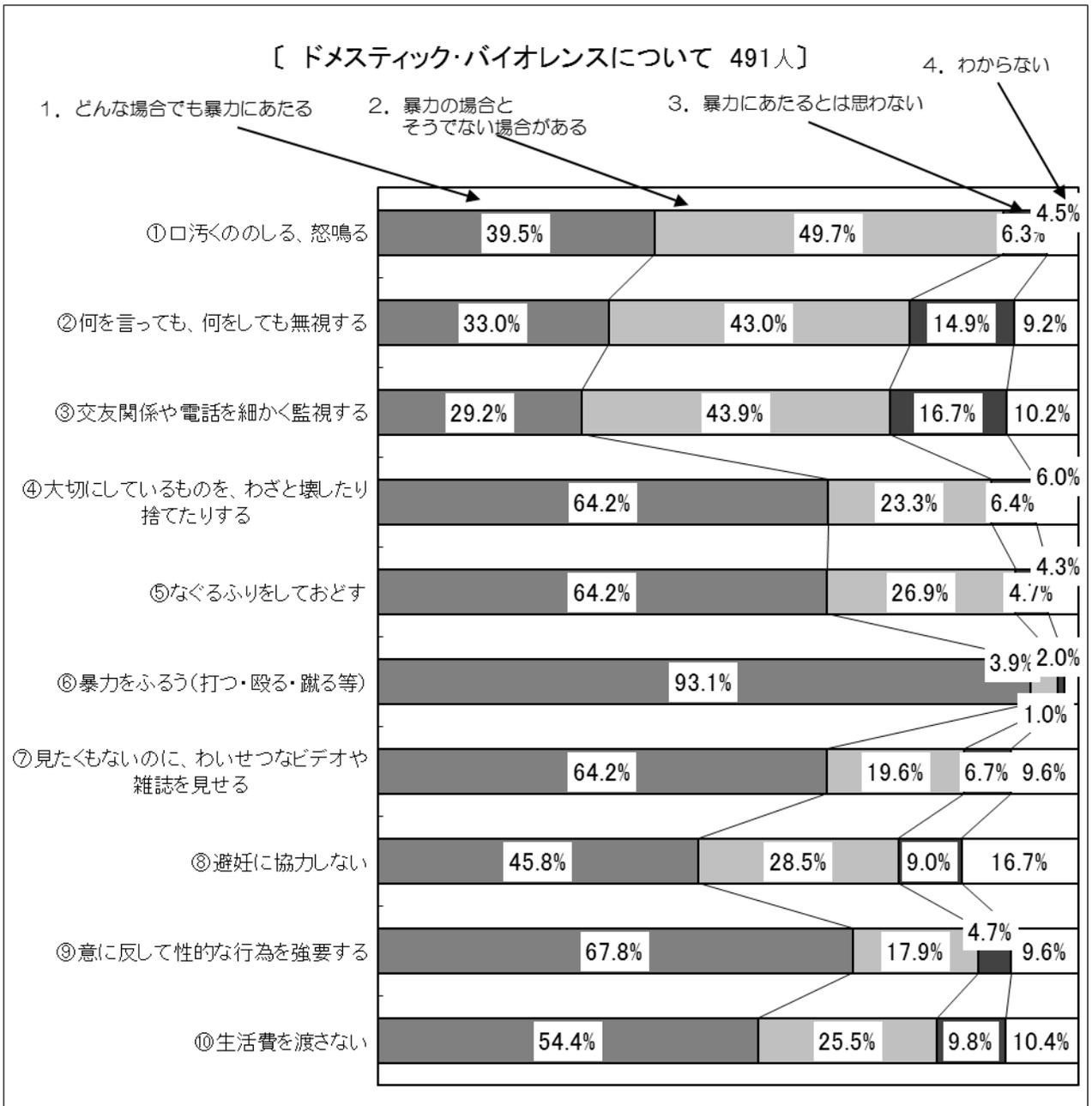


平成26年度(薩摩川内市調査)

6 『男女の人権について』

問15 あなたは、夫婦間または親しい間柄の男女の間で行われる、次のような行為は暴力にあたると思われますか。

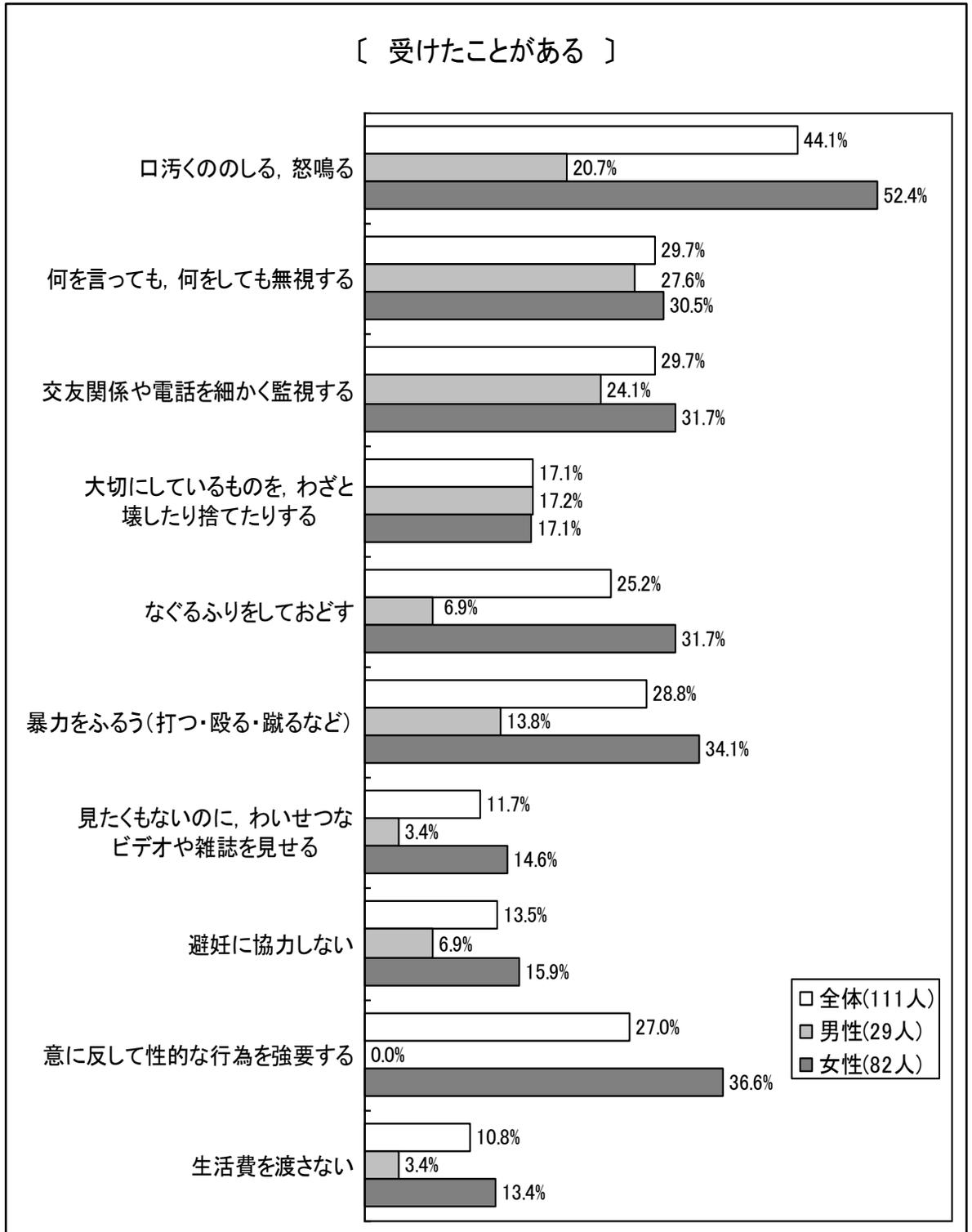
〔傾向〕 「身体的暴力」や「性的行為の強要」はどんな場合でも暴力にあたると思っているものが多いが、それ以外の精神的暴力や性的暴力などは、暴力にあたるとする認知度がまだ十分でない結果となった。ただし、前回より全体的に暴力の認知度は上がってはきている。



平成22年度(薩摩川内市調査)

問18 あなたは、配偶者や恋人などの親密な間柄にある異性から、問17の(1)～(10)までにあげたような行為を受けたり、または自分でしたことがありますか。

〔傾向〕 「口汚くののしる、怒鳴る」や「何を言っても、何をしても無視する」などの精神的暴力が比較的に高い割合を示した。
次に「暴力をふるう」の肉体的暴力、「あなたの意に反して性的な行為を強要する」の性的暴力・「なぐるふりをしておどす」の精神的暴力の順であった。



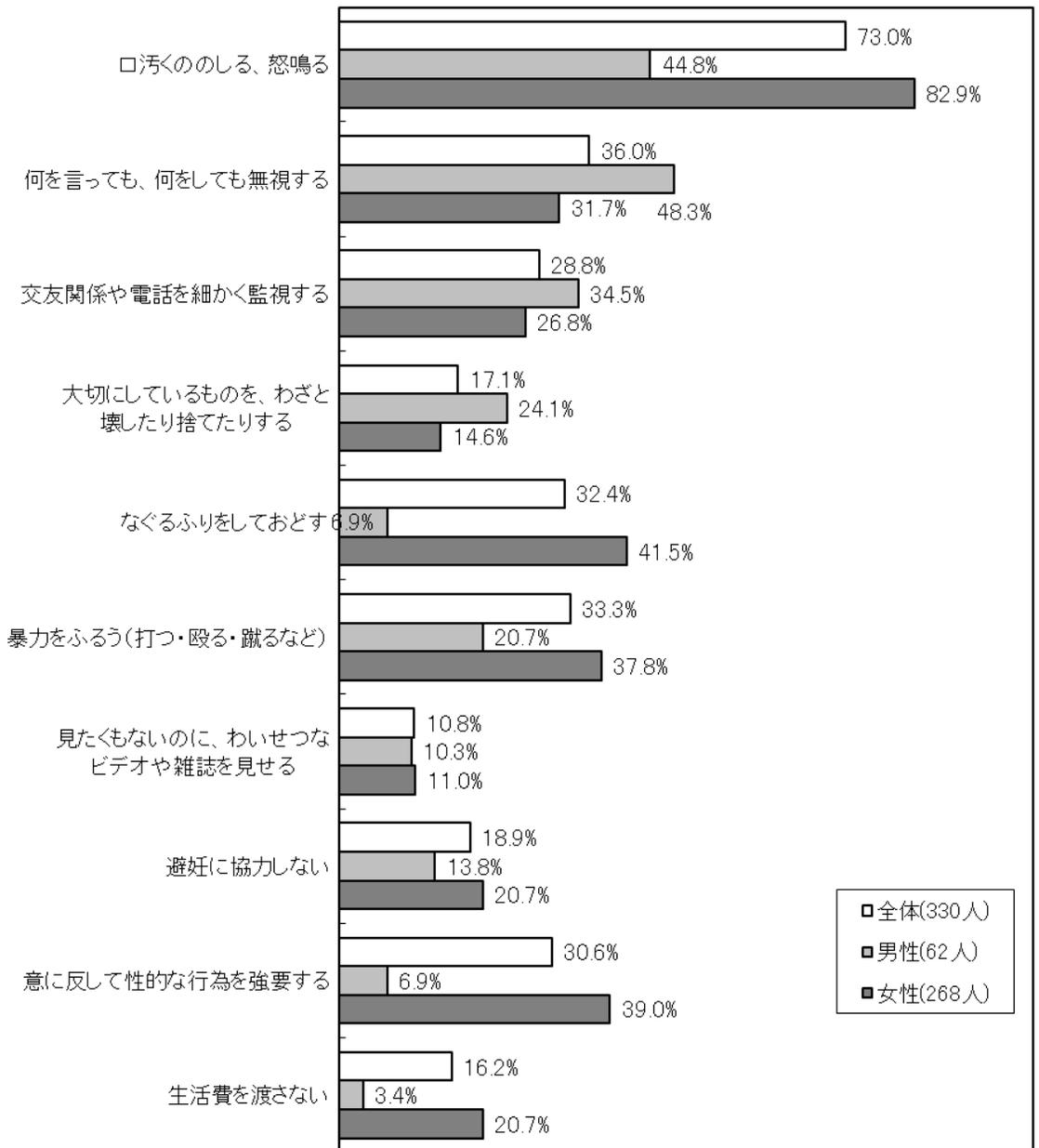
平成26年度(薩摩川内市調査)

問16 あなたは、配偶者や恋人などの親密な間柄にある異性から、次のような行為を受けたり、または自分でしたことがありますか。

〔傾向〕 「口汚くののしる、怒鳴る」や「何を言っても、何をしても無視する」などの精神的暴力が高い割合を示した。

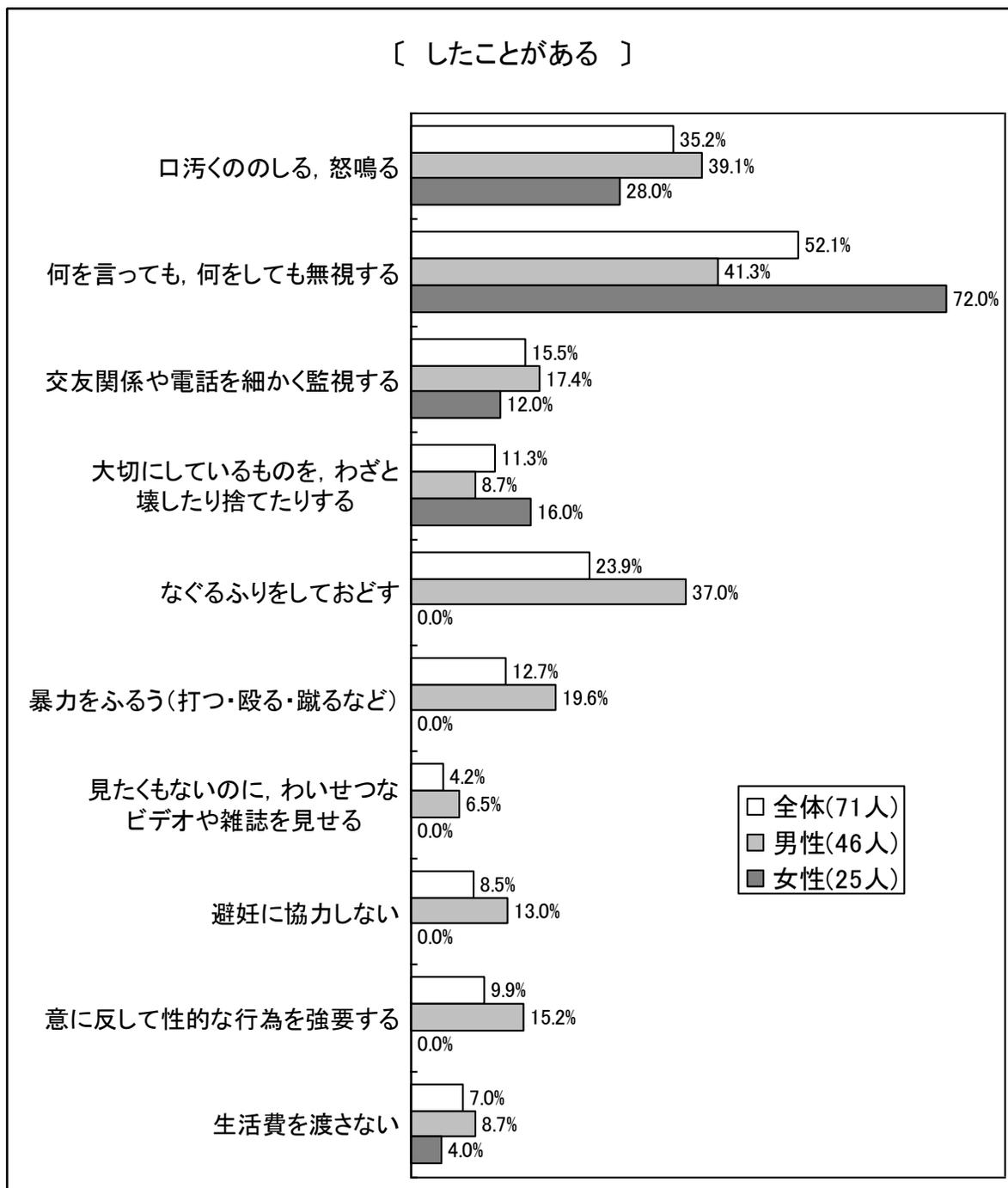
次に「暴力をふるう」の肉体的暴力・「なぐるふりをして、あなたをおどす」の精神的暴力、「あなたの意に反して性的な行為を強要する」の性的暴力の順であった。

〔 受けたことがある 〕



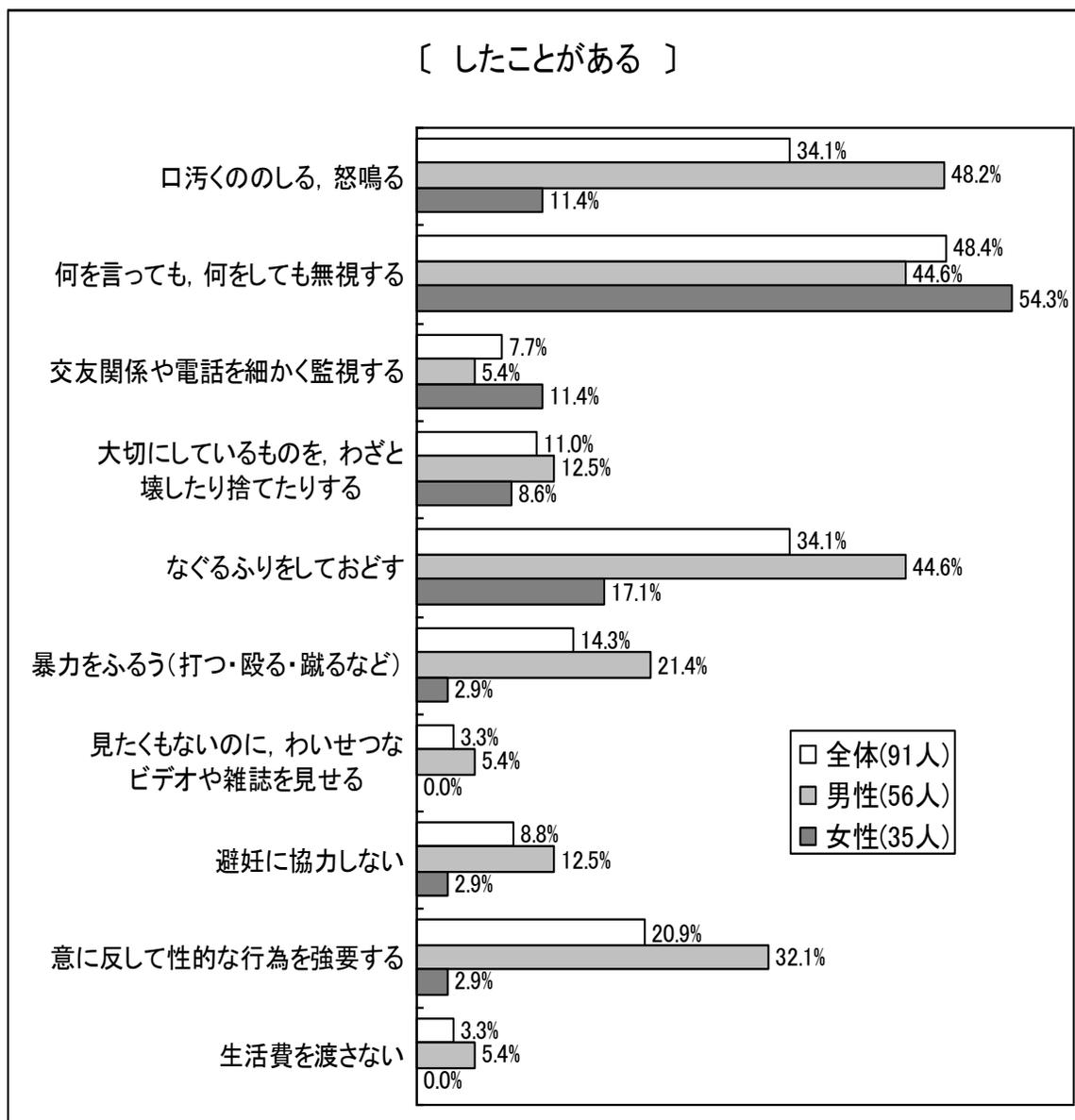
平成22年度(薩摩川内市調査)

〔傾向〕 受けたことがあると同様「何を言っても、何をしても無視する」や「口汚くののしる、怒鳴る」「なぐるふりをしておどす」などの精神的暴力が、比較的の高い割合を示した。次いで「暴力をふるう」、「意に反して性的な行為を強要する」の身体的暴力の順であった。



平成26年度(薩摩川内市調査)

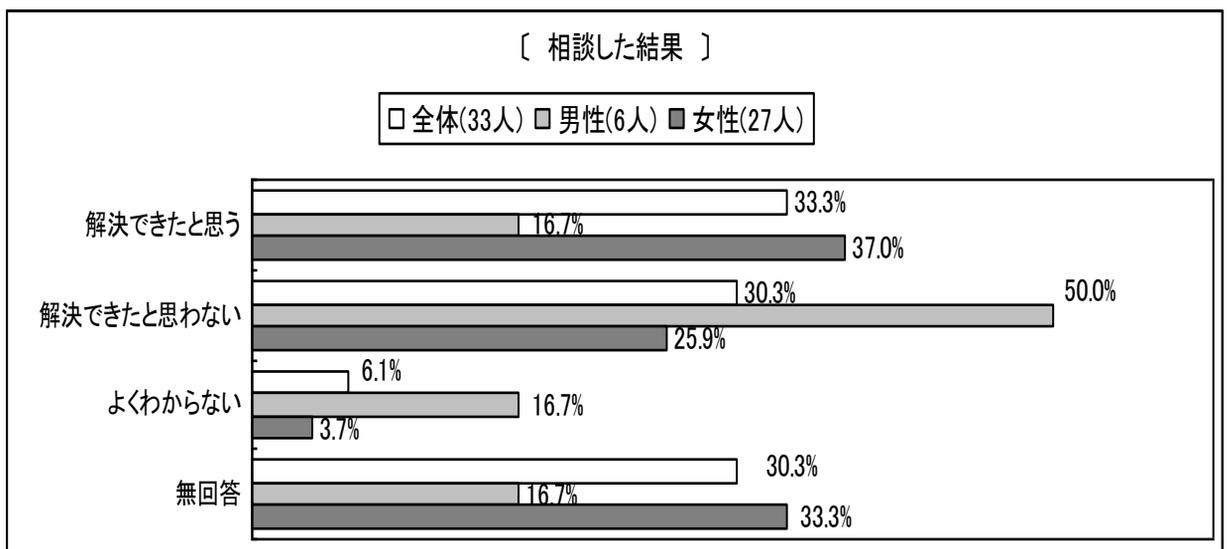
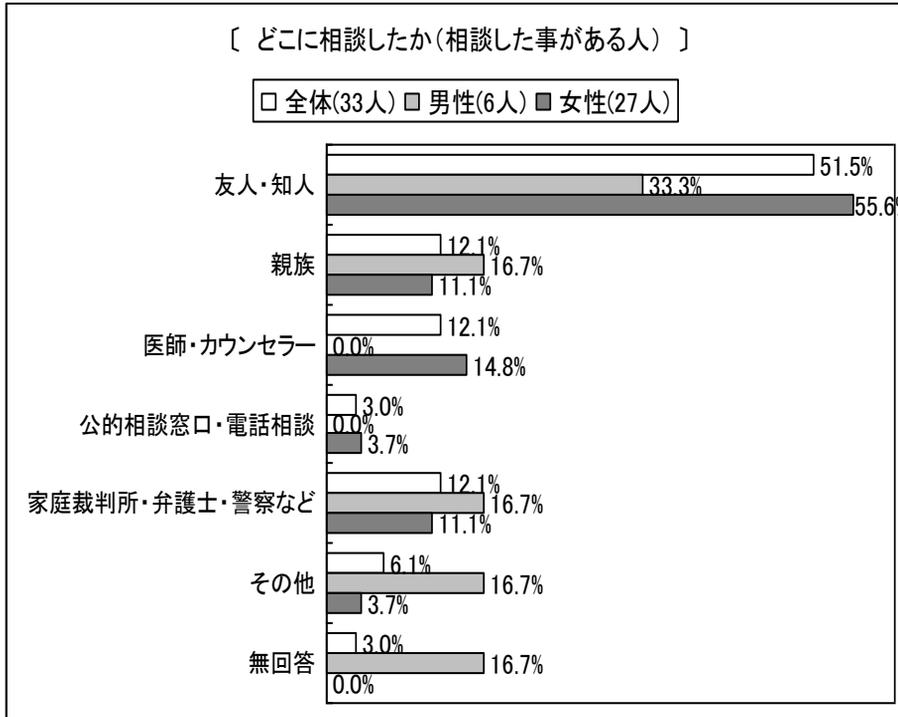
〔傾向〕 受けたことがあると同様「何を言っても、何をしても無視する」や「口汚くののしる、怒鳴る」「なぐるふりをして、あなたをおどす」などの精神的暴力が、比較的に高い割合を示した。次いで「意に反して性的な行為を強要する」、「暴力をふるう」の身体的暴力の順であった。



平成22年度(薩摩川内市調査)

問19 問18の「受けたことがある」(①から⑩)のいずれかに○印をされた方にお尋ねします。あなたは、その行為を受けたことで誰かに相談したことがありますか。(複数回答)

〔傾向〕 「暴力」を受けているということ、他に相談しても解決するまでにはなかなか至らず、医師・カウンセラー、公的窓口等の利用者は少数という結果であった。DVは潜在化する傾向が強いといわれているが、本市においても例外ではなかった。
 前回に比べ、「親族」に相談する割合が減少し、対外的な相談窓口の利用が増えている。



※ 相談したことで解決したと思っているものが3割で、それだけでは解決できなかったと思わないものも3割であり、簡単には問題を解決できる状況には至っていない。

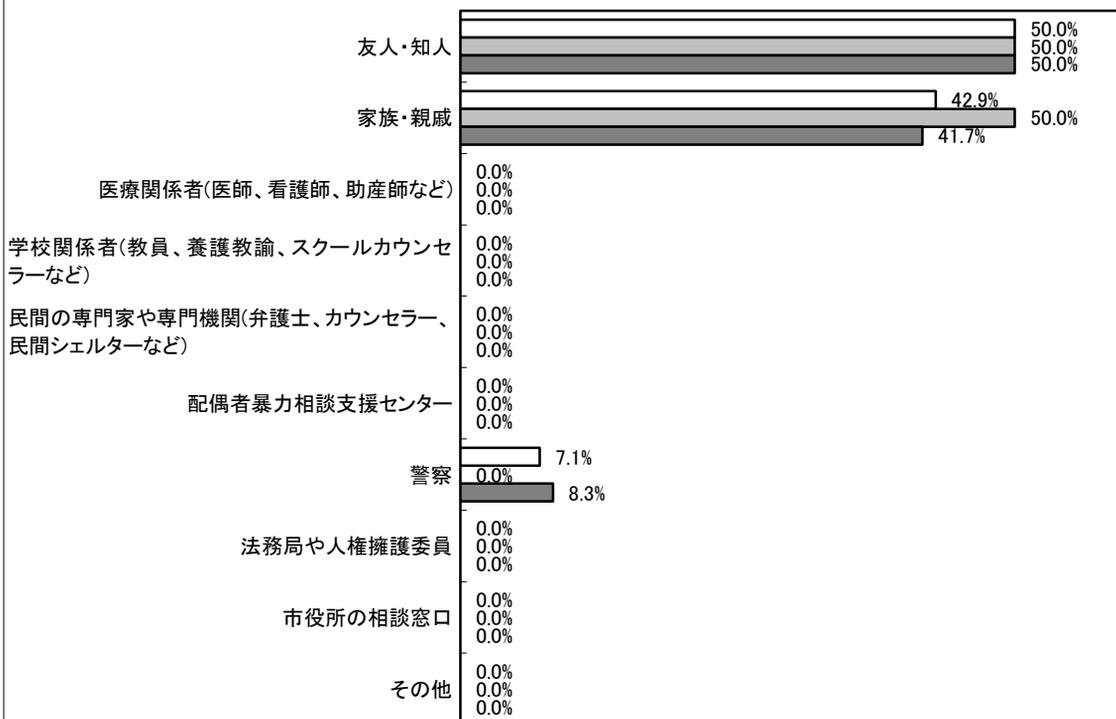
平成26年度(薩摩川内市調査)

問18 問16の「受けたことがある」に○をされた方にお尋ねします。あなたは、その行為を受けたことでどこかに相談したことがありますか。(複数回答)

〔傾向〕 「暴力」を受けたことについて、誰かに相談した人は9.6%であった。相談した人は、男女とも友人・知人、家族・親戚など身近な人であった。公的な機関では警察のみへ相談があった。今回の調査対象者の中には、配偶者暴力相談支援センターへ相談した人はいなかった。解決できたと回答した割合は男性は100%だが、女性は25%と低い状況にある。

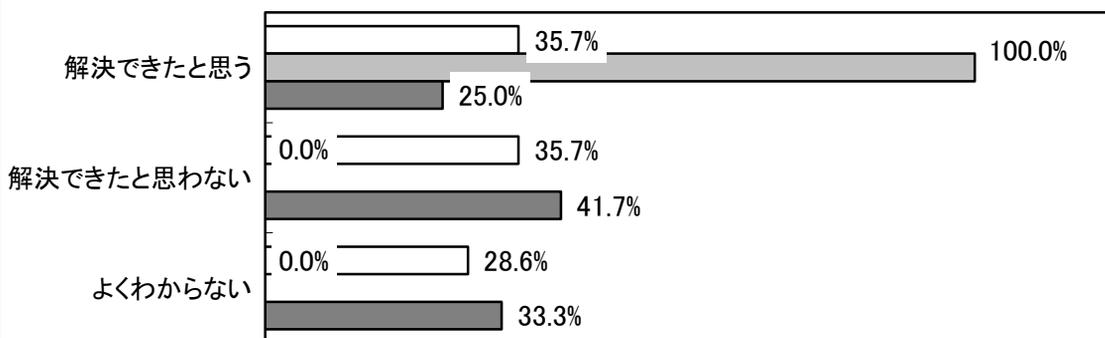
〔 どこに相談したか(相談した事がある人) 〕

□全体(14人) □男性(2人) ■女性(12人)

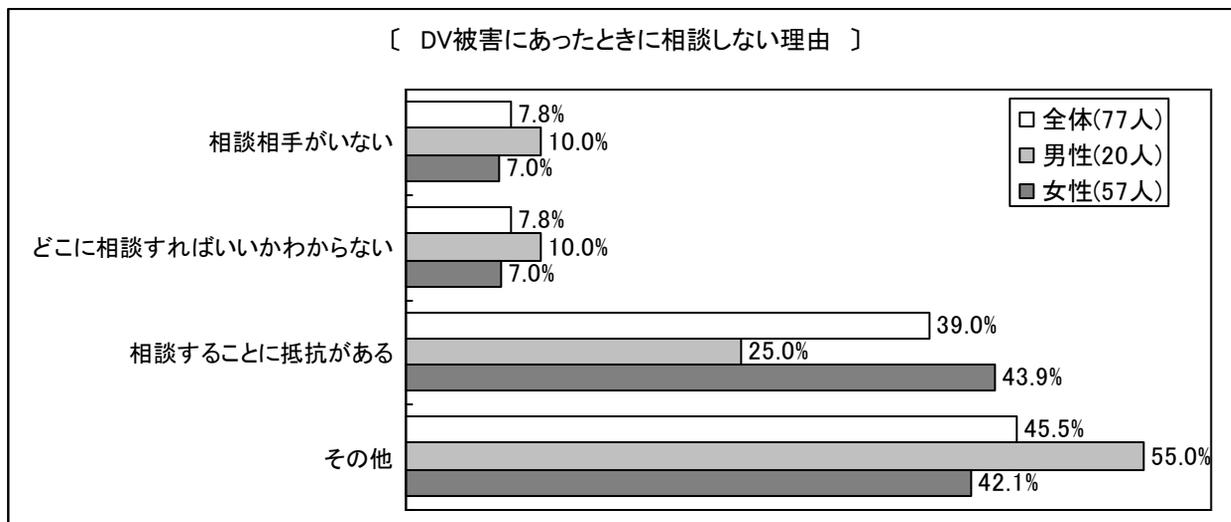


〔 相談した結果 〕

□全体(14人) □男性(2人) ■女性(12人)



平成22年度(薩摩川内市調査)



※ 女性は、「相談することに抵抗がある」が最も多かったが、男性は相談するまでもなく自己解決を目指すとの回答が最も多かった（その他の項目で多数記入あり）。

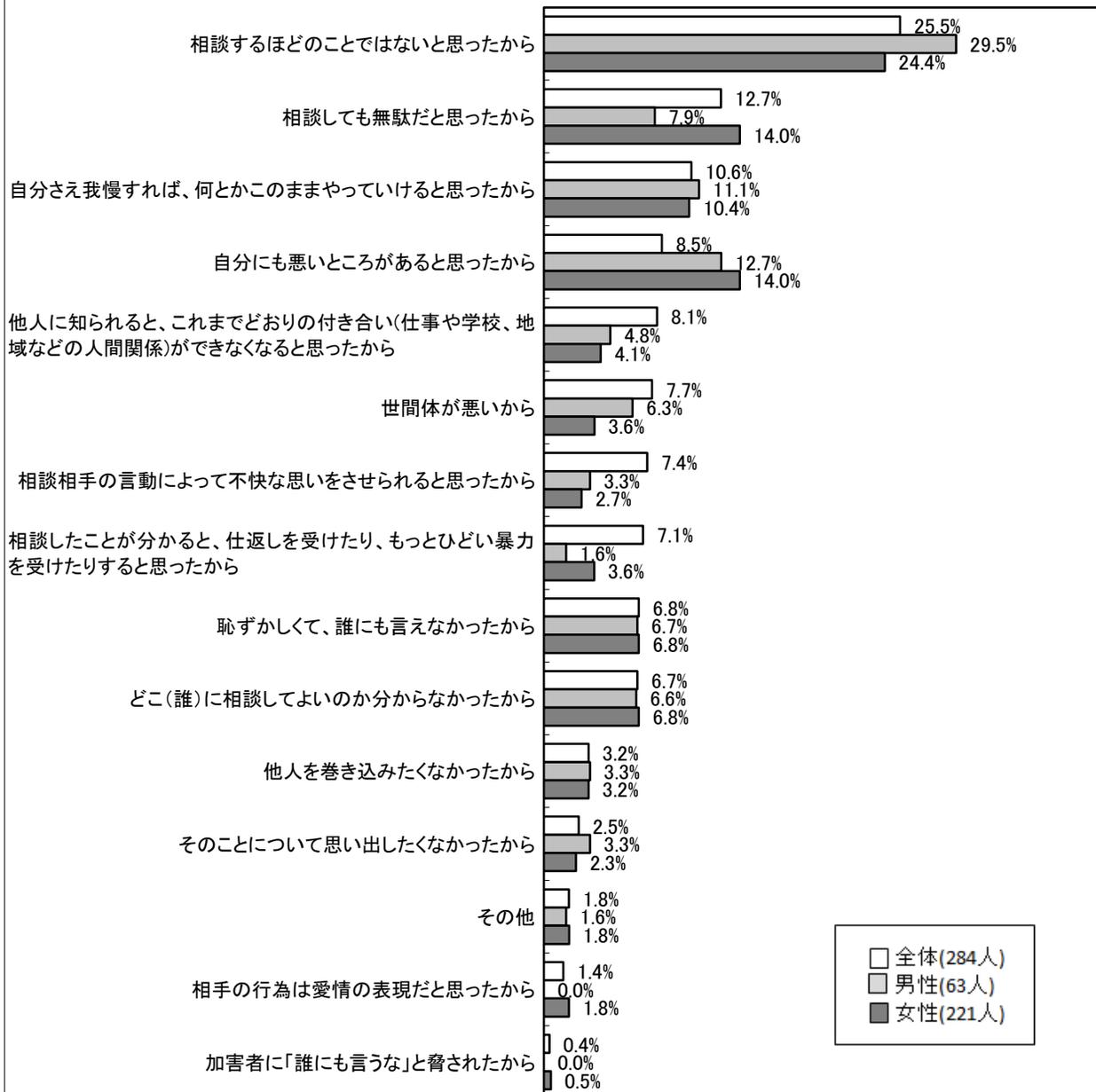
前回に比べて、「どこに相談すればいいかわからない」と回答した割合が減った。相談機関の周知や認識が進んできたと思われる。

平成26年度(薩摩川内市調査)

問19 相談しなかった理由を選択してください。(複数選択)

〔傾向〕 男女ともに相談するほどでもないが最も多い。女性では、相談しても無駄、自分にも悪いところがある、自分さえ我慢すればといった理由が次いで多い。また、恥ずかしくて誰にも言えない、誰に相談してよいかわからないなど、相談することへの抵抗もある。

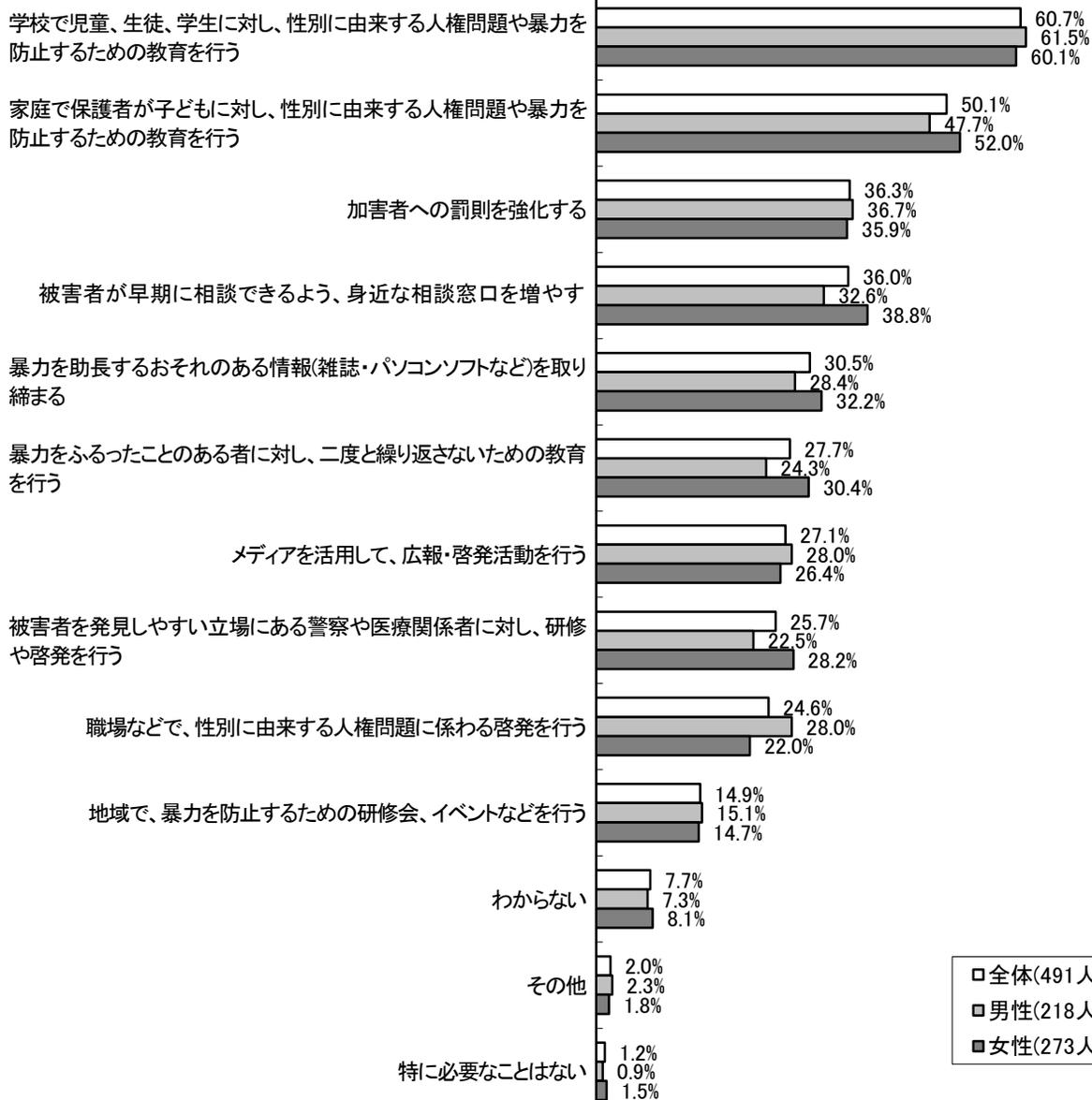
〔 DV被害にあったときに相談しない理由 〕



問20 あなたは男女間における暴力を防止するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。(複数選択)

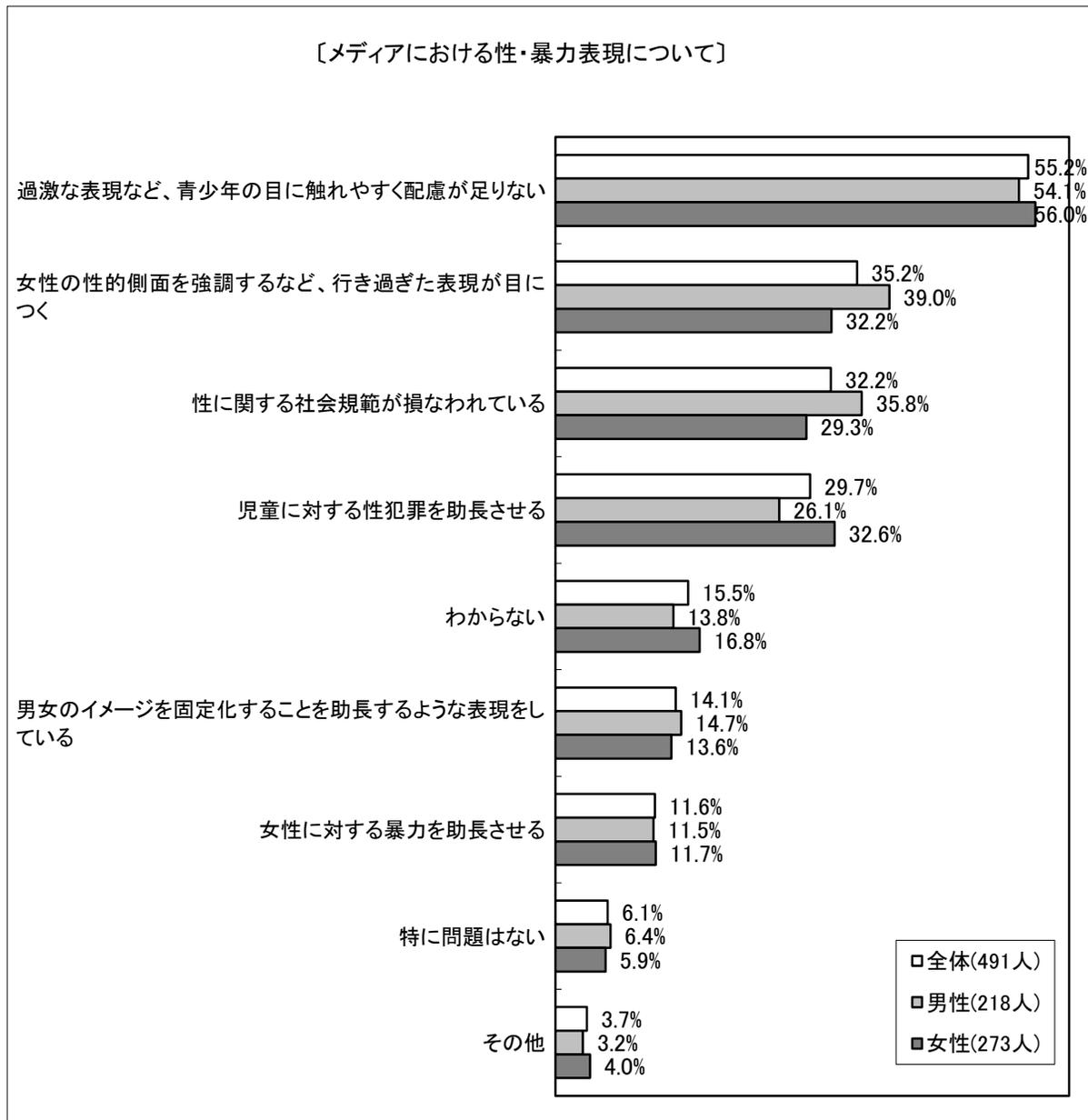
〔傾向〕 学校や家庭において人権問題や暴力を防止するための教育が必要と過半数の人が答えており、子どもに対する教育の充実を望んでいる。また、暴力を助長する恐れのある情報への取り締まりや加害者への罰則の強化、被害者の早期救済のための相談窓口の充実などを望んでいる人が多い。

〔男女間における暴力を防止するために、何が必要だと思いますか。〕



問21 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えますか。(複数選択)

〔傾向〕 過激な表現など、青少年の目に触れやすく配慮が足りないと考えている人の割合は全体で55.2%となっている。これを年代別にみると40歳未満では男性が25%、女性が36%と低い状況がある。女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現への問題意識などについても、40歳未満では低くなっている。児童に対する性犯罪助長については、子育て期層の女性が高い数値を示している。



7 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

問22 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)※2」が実現した社会について、政府は以下の3つの項目を掲げています。あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目が1年前と比較してどのように変化していると思いますか。

※2 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

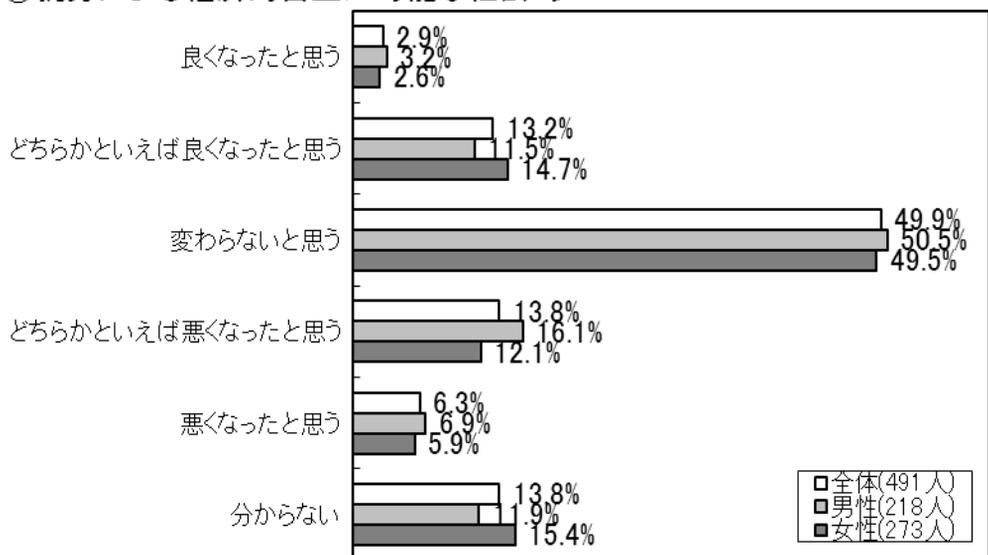
「一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会

①就労による経済的自立が可能や社会

経済的自立を必要とする者とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ、経済的に自立的可能な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤が確保できる。

〔傾向〕 1年前との比較ではあまり変化は感じていないようである。悪くなったと感じている人の割合が良くなったを4ポイント上回っている。性、年代別にみると50～60歳代男性、次いで50歳代女性において「悪くなった」と感じている人の割合が高い。

〔 ①就労による経済的自立が可能な社会 〕

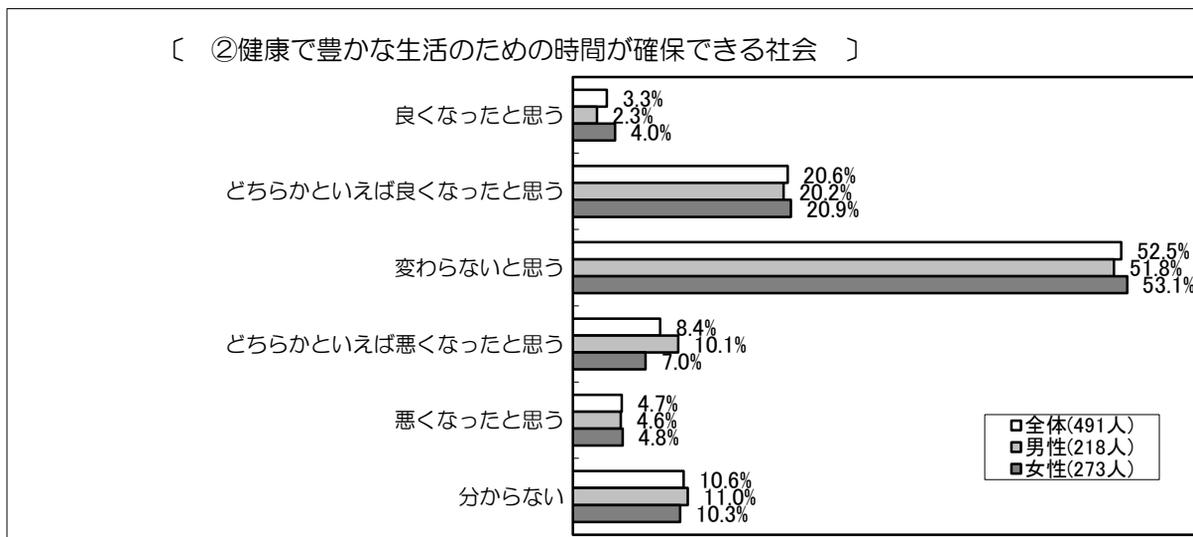


平成26年度(薩摩川内市調査)

②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

働く人々の健康が保持され、家族・友人などの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などを持てる豊かな生活ができる。

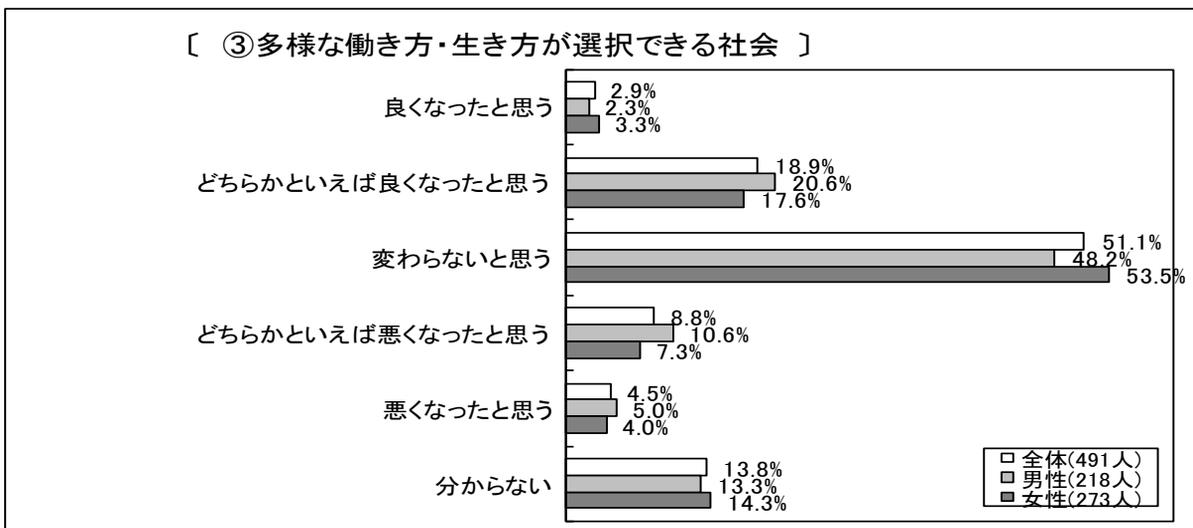
〔傾向〕 「変わらない」が52.5%で、「どちらかといえば」を含めると、「良くなった」が「悪くなった」を約11ポイント上回っている。性・年代別にみると70歳代女性、70歳代男性、60歳代男性、20歳代男性の順に「良くなった」と感じている人の割合が高い。



③多様な働き方・生き方が選択できる社会

性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。

〔傾向〕 「変わらない」が51.1%で、「どちらかといえば」を含めると、「良くなった」が「悪くなった」を約8ポイント上回っている。性・年代別にみると50～60歳代において「悪くなった」と感じている人の割合が高い。



平成26年度(薩摩川内市調査)

問23 男女共同参画社会の実現に向けてのご意見・ご要望

- ・育児休業を取得できる職場が少なく、その間の給与の有る無しも少子化の原因の一つでは？と思う。
- ・例えば、市長、県知事などに女性が就任するという事はないのでしょうか？これも男性優先社会と考えてしまいます。
- ・男性が働く職場の方が多いと思う。
- ・“女性の何割を役職につけよう”といった数値目標を掲げるだけでは、無能な人材まで出世しかねない。それによって男性の反発が生まれ、女性と男性の溝はより深くなるだろう。「女性・男性・出産・学歴・育児」そのような壁を取っ払って平等に評価した上で、優秀な人が上へ出世するという単純な仕組みが一般化されてほしい。
- ・鹿児島は男性が優遇されている場面が多いと思いますが、学校教育で男性を優遇する風潮を少しずつ話をして、考え方を改めて頂くようにしたいです。
- ・出産や育児を経験して、突然の休暇を頂かざるを得ない状況になった事が何回かあります。そんな時、職場から休暇取得の許可を頂きました。制度や権利としては、当然だと言う人もいますがやはり、突然の休みには、残された職場にとって迷惑をかけてしまいます。昨今の不景気の中、休みを与えることは、企業にとっても大変なことだと思います。そんな中でも、本当に頑張ってる企業もあると思います。個々の意識を高めると共に、工夫し、努力している企業に対する評価をすることで、相互に良い影響があるように思います。
- ・以前より、働く環境は改善されていると思いますが、かつて、“女性は家を守る”と教えられ、育った世代の方が、現在、管理職に就かれているケースが多いかと思います。その世代の方々の意識改革が必要かと思います。悪気はなくても、「私達の頃はこうだった」の発言があると、やはり、柔軟な働き方を希望しにくくなります。
- ・働く女性の生活を考えて下さってありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。
- ・『性別に由来する人権問題』の中には、同性愛やトランスジェンダーも含まれていますか？そのあたりの事も義務教育で学ばせるべきだと思います。
- ・直接は関係ないと思いますが、子育てに関する支援センターなどの施設の開いている日や講演会など市の行事が、一般的に働いている人が多い平日にしかないように思います。子育ては女性だけのものでは無いと思いますが、家庭にいるママ向けなのかなと思ってしまいます。パパも子育てに積極的に参加してもらうためにも、日曜や祝日の支援センター開館や行事の実施も検討して頂ければ、ありがたいと思います。
- ・この様なアンケートをもとに今後のイベント等、何か変化が起こるかを楽しみにしています。
- ・男女共同参画社会になっていく事はとてもいい事だと思います。ただ、自分の権利ばかりを主張して、周りに迷惑かけたり、責任をとらないのは望ましくありません。お互い協力合って、住みよい街にしていけたらいいなと思います。
- ・市女性50人委員会の委員メンバーの年代の幅を広げ、各年代の意見を拾い上げられたらいいと思います。
- ・働きたい人は多くいるのに、フルタイムでの採用しかない。
- ・女性は子供の習い事・食事・宿題など夕方は忙しい。

平成26年度(薩摩川内市調査)

・大人になってから、考え方や生き方を変えるのはとても難しいと思います。子供の時から「男女関係なく、仕事も家事も育児もする」という環境で育てられることが大事だと思います。家事はよく「手伝う」と表現されますが、これは「家事は女性が担うもの」という前提があって使われる。家事・育児は「分担し、協力する」という表現をし、まずは家庭の中から「男女」ということに縛られず、互いが自分らしく、家庭・社会の中で生かされるような教育が必要だと思います。家庭内の男女共同参画が進めば、家庭外で女性も活躍しやすくなるのではないのでしょうか？しかし、理想の社会に移行していくまでには時間がかかります。その変化を促進するために、時短勤務や、男性の育休取得を活用しやすい環境整備が必要であると思います。

・女性が参加しやすい育児のサービス体制をつくっていったらと思います。

・消費増税や社会保障費用の負担増、扶養者控除の廃止、さらに配偶者控除の廃止も検討される中では、女性に限らず、労働意欲の低下につながる。行政自身が身を切らない改悪を行い、市民に負担を強い、不安を強調する政策をとれば、調和のとれた生活は実現できないと思う。男女共同参画社会の明確なビジョンを示す事で、参画意欲が向上すると思う。(男女共同参画社会は女性の地位向上や男女対等な社会を作る場だけではなく、調和のとれた豊かな社会実現のためにあるのではないのでしょうか)

・男性は残業や出張が多く、家庭に入るのが難しい。お互いに経済的自立するには子供が大きくなると結局、難しい。学校での放課後の預かりをいろいろな民間の習い事教室を運営して、フルタイムの時間にあわせたり工夫していけると、もっと働きやすい環境になるかと思います。

・女性の人権が守られず、男女が平等でない現実があるので、「男女共同参画社会の実現」を目指さなければならないと思います。本当に女性の人権ばかりでなく、弱い立場の人の権利が守られ、尊ばれる社会になるよう、願ってやみません。たゆみない努力をされておられる方々に敬意を表します。

・男女共同参画社会という名称から、親しみやすい名称へ変更し、活動報告・内容を広報誌や市ホームページ等ではなく、自治会等、小さい規模での周知を実行する。

・男女共同参画社会は理想ではありますが、実際に出産するのは女性です。子供にとっては母親が必要な時期があり、その時期はそばにいてあげたい。しかし、仕事を持っていると、両立が難しいのが事実。子育てをしっかりできて、職場復帰がスムーズにできる環境は整いつつありますが、復帰後の職場での研修・出張など、男女平等と言われても、男性と同じように・・・とは、家庭での理解・サポートがないと、かなり難しい。家庭優先・仕事優先、そのような選択ができる社会が良いと思います。育休などの制度がなく、退職してしまった40代の私たちも再雇用の機会を多く与えてほしい。

・一日でも早く、この手のアンケートが必要なくなる社会になればいいと思います。

・実現・・・なかなか難しいですよ。長い目で・・・何年もかけて誰もが納得できる様な実現できる、大丈夫と思える様になるのではないのでしょうか？今現在では、個人個人の意識を変えられる様な事を考えて働きかけるしかないのでは？そう思うのは、私だけなのかもしれませんが。私も現在、仕事もしないで、専業主婦の状態、自分にあった仕事(時間・日数)を探していますが、なかなか難しいので・・・。子供優先では、仕事ありませんね。

・女性が教育を受けられない国があることを思えば、日本はいいのだと思う。男女差別を受けていると感じている人は本当に多いのだろうか？社会的には進出していなくてもそれが即ち、差別なのか、哀しむべき事なのだろうか？社会進出を望む人と望まない人がいるだろうし、家を守る事が大切なことである、ということに認めていないとすれば、間違った「男女共同参画社会」なのではないか？男女が同じことをするのが重要なのではなく、役割分担していても、人としての価値は平等である、という観点が大切だ。みんなが目立つ顔の細胞になりたくて、足の裏の細胞がなくなったら、ヒトは立つことができないということと同じだ。

平成26年度(薩摩川内市調査)

- ・工事現場で働く女性を見たり、看護や介護、保育職でも男性を見かけるようになりました。若い世代では性別に偏見がなくなっているように見えますが、50代、60代の方々とお話の中で男性優位の見方や発言が多く見られます。高齢の方々も男女共同参画について学ぶ機会を増やしてほしいと思います。また、暴力行為は夫婦や恋人同士だけでなく、同居家族の間でも人権を侵害するような行為は許されないこと、相談できる場があること、逃げる場があること等を、若い子育て中のお母さん方に周知してほしい。
- ・男女共同参画社会になり、女性も働きやすくなってきましたが、女性の立場からして、責任を担うことは負担が大き過ぎる場合もあるのでは？意見が述べられて、活動的な人は良いのかも知れませんが・・・陰口を言いたければ、公の場に出て意見を述べてほしいと思います。男の人も家事ができないと協力が得られません。まだまだ男性の方が強いです。
- ・男女共同参画の話を知ると、時々、極端な事を言われる方がいる。私は個人的に女性は社会進出や出世をどんどんして良いとは思いますが、その中でも“女性らしさ”を持った女性ならではの持ち味だと思うのだが・・・。それ自体、子供の頃から、“男は男らしく”、“女は女らしく”と思考を操作されているみたいな話を聞く。働きたい人は働けばいいし、家庭を守りたい人は守ればよい。“ジェンダー”を強く訴える人こそ、差別しているんじゃないの？と感じることがある。男らしく女らしくではなく“自分らしく”生きるのが、いいんじゃないかなあ・・・。
- ・ジェンダーの問題は大変難しいです。文化や特性などなど、難しいと感じております。
- ・個々のおかれている環境や職場などで、まだ大きな格差があるような気がする。そのためには、男女共同参画社会について、広報や学習会等を頻繁に行い、根づかせることが必要である。
- ・公務員がまず、男性優位の考えを改め、女性をもっと登用すべきである。しかし、女性だからといって、無能な人を登用してはならない。また、男性は女性の下につくことが恥という意識を捨て、人間同士でお互いを認めあう世の中にしないとイケないと思う。
- ・就労における勤務時間、延長(残業)、さらに時間給の較差が男女共にパート・アルバイトで有り過ぎです。差別化が多過ぎる中で、経済的・健康的な社会の確保？豊かな生活？本当に実現するのでしょうか？他府県、市外に比べて、薩摩川内市内では、働く場所も少なく、最低賃金も支払われない企業もある中で夢のような話です。公平性のある、誰もが豊かになれる社会になるよう、期待しています。宜しく願い申し上げます。
- ・定年後の社会参加を支援する施設やサービスが充実してほしい。まだまだ元気なシニア、発掘能力を持っています。
- ・自治会の行事にはほとんど参加しています。いじめも時々有り。女性はまだまだ弱いです。
- ・分かっているようで分かっていないのが現実です。ごめんなさい。
- ・まだまだ周知が足りないと思う。
- ・人間には誰でもプライドを持つ事、そして、それには相手に、ほめるだけでなく、自分にも責任と義務があると子供の頃から教える事が大切だと思います。
- ・心ある社会を望みます。命を大切に。
- ・地域全体の中で、個々の生活・生き方を尊重する姿勢が難しい。都会と違い、地域で支えあうという観点はよいが、個人のプライバシーが守られないので、生き方に理解が得られない。
- ・乳幼児検診に父親の参加をうながし、意識を高めていくと良いと思う。

平成26年度(薩摩川内市調査)

- ・男女共同参画社会を目指す取り組みは、全ての事項に男女共に平等で、権利の主張のように受け取られがちである事に違和感を感じる。又、ジェンダーにこだわり過ぎる感がする。個人差はあるが、一般的に市民の男女共同参画に対する意識も変わってきているのが、現況ではないかと思われる。女性自身がエンパワーメントへの意識向上への取り組みが今後、必要ではないかと考えます。
- ・一人の人間として生活して行く上の計画で、中学、高校、大学時に最も適した最低限の社会生活に必要なと税の意味や、生活に伴う基準の教育が出来れば、又、現状社会の仕組みも大人も子供も自立できたらと思う。教育は家庭の親から崩れてしまっているので、人としての意味を理解するべき。教育が必要だろう。
- ・年齢層に関係のない組織作りをしてほしい。
- ・自分自身の人生を振り返り、学生時代や職場、家庭生活においては、男女同権の教育を受けましたので、男女の差別を感じなく生きてきました。ただ、地域社会においては、昔からの慣習があり、妥協することで無難に生活出来る知恵を学ぶと思います。
- ・古希を迎え、近々中学校の同窓会を行います、女性がリーダーとして企画しています。男性は未だに仕事が忙しそうですが、参加者は多く、協力的です。まさに男女共同参画の同窓会です。女性が積極的に活動すれば、楽しく生き活きた家庭・職場・地域・社会になると思います。女性が我慢する時代は終わりかと思えます。全てに我慢すると必ず、歪みがきます。男性の素晴らしさ、女性の素晴らしさをお互いに認め合いながら、各々の個性・能力を活かしながら、男女共同参画なんて言葉も意識しない社会を目指しましょう！
- ・世の中が良くなったとは思わない。正直者は損をする。良い事も悪い事も身体で受け止めて来たが、事実、人間正直者は損をするが、それが今の世の中だと思ってる。テレビを見ながら、親を殺したり、子供を殺したり、問19にあったように、だれが相談に乗ってくれる？真剣に親身になど、やってくれないのが現実である。
- ・男女共同参画社会の実現には、まず、女性が子育て、家事、介護とすべてをするのではなく、男性(夫)の協力をもらいながらでないと出来ないと思う。女性の社会進出にはおおいに良いと思うが、女性であるという甘えを捨てて役職もしっかり受けて頑張してほしいと思う。育児休暇を当たり前のように取ってもらっても会社も大変厳しいものがあるのではと思う。私のような考え方が少子化を生むのかとも思いますが・・
- ・マタハラ裁判など、男女共同参画社会とスローガンを掲げてきたわりには成果がないように感じる。地域の自治会でも、男性役員がほとんどで、女性は一人二人お手伝い役員として名前だけ入れておく。又、女性(引っ越して数年住んでいる人)が良い意見を言っても、女性のくせに・地元ではないのにと言う男性もいる。男女共同参画社会はまだまだ小学校からの教育からだと思う。あと100年はかかりそう。
- ・年老いても忘れられない言葉が今でも心の中に残っている事があります。昔は専業主婦が多く、昭和50年頃パートで子供を保育園に預け、5時間働きました。その時、祖母が“あんたは子供を預けてまで働きに行くのか”と言われました。残念でした。理解出来ず！
- ・とにかく、社会システムを大きく変革させない限り、すり込まれて来た観念はそうそう変えられないと思う。みんなが平等で安全な社会の中で、自己実現して行くと、心から望み、小さな行動でもし続ける人をどれだけ増していけるか・・願うところです。
- ・問22では、私は子育ても終わり、それなりの生活が出来ているが、若い世代はまだまだ大変ではないか。自分達も子育ての頃は生活する中で大変だったように思う。政治が変わっても、隅々までいい水は流れてこない。それぞれの立場から(男女)の意見が特に女性は強いので、もっともっと社会に出して欲しい。人材が眠っているように思う。

平成26年度(薩摩川内市調査)

- ・男女共同参画社会とはどうあるべきか・ポイント・モデル形成とか・只単に男女平等のみは理解出来ませんが、内容があまり理解出来ません。
- ・昔受けた暴力により、2回も耳の手術をしたけど一方だけは聞こえません。誰にも言えず、義父母がいて厳しいだけで、ただ、我慢の人生でした。今の若い人達を見ていると、自由で色々な面で守られていると思う。外に出て働ける場所があり、男性に負けず、若い人達は頑張ってる意見が自由に言える社会こそ、男女共同参画社会だと思います。泣き寝入りしないで。
- ・地域の色々なコミュニケーションの取れる場をもっと増やし、若者の出会いの場、子供達が伸び伸び遊べる公園など、増やしてほしいと思う。市内には公園が少ない。孫を遊ばせる所がない。残念です。
- ・個人的な事ですが、私は保健師・助産師・看護師・養護教諭一級・ケアマネージャーの資格を取得し、臨床と看護学校の講義を行っていました。講義の科目は看護管理・在宅看護・老年看護・母性看護・小児(新生児)看護学などでした。神戸在住の時は母性看護(保健)全般を担当していました。「セクシュアリティ」や「ジェンダー」については、その時から関心を持ち、学生や周囲(地域)の人達にも私なりに伝えてきました。当然、セクシュアリティ(人間の性)は性行為や性器を示すセックスという概念ではなく、ジェンダーを含んだ人間の全人格と全生涯を包括した幅広い概念と考えています。
- ・学生をはじめ、地域の方々へ・・・「セクシュアリティ」を具体的に理解してもらうのは、困難な事だと思っています。人の発達段階毎にセクシュアリティはありますが、現在、高齢者の介護を中心に担当しておりまして・老年期の方々の性に関する事で悩む時があります。それは、介護を担当する人達が知識をあまり持っていない、その会話や対応において、言葉の暴力や虐待につながっていく事もあります。
- ・若い方々の考えと年令の高い方々の考え方が異なる問題もあったと思います。今の若い方々は家庭を大切に協力的だと思いますが、どうでしょうか？羨ましい時が多々ありますね。
- ・今回の調査は難しいでした。子供が畜産をしていて、唯々毎日の仕事の手伝いをしている、外出はあまりしないので、分からないです。申し訳ないです。
- ・私達が病院に勤務している頃は今のようには会社や国の保護や配慮はほとんど、ありませんでした。私自身、病院では主任・婦長・看護部長と短期間に昇格し、後半は看護部長としての役割を果たしてきました。看護師の時代も管理者の時代も、病院には生命ある患者さんがおりますので、自分の都合で休むという事はほとんど出来ませんでした。ですから、2人の子供を5年間保育所に預け、迎えが遅くなる時は近所の方4人をお願いし、迎えに行ってもらいました。必然的に帰宅後の世話も・・・子供の入学式・卒業式・保育園のいちご狩りにも一緒に行ったことはありません。当時、元気だった母にきてもらい、病院の独身の看護師さんに協力してもらいました。お盆や正月も若い職員に休みをとってもらい、優先して勤務しました。台風や大雨の時も病院に泊り込みました。私がやってきたことを他の人に押し付ける気はありませんが、社会で役割を果たすのであれば、それなりの覚悟は必要ではないかと思えます。私が言いたかったのは、国の法律や制度・会社の配慮・他職員の理解がなければ、子育てと会社勤務の両立はできないと言うことではないと考えます。女性の能力や資格を社会で生かす為には、個人的な強い意志・覚悟・努力・工夫そして周囲への配慮や感謝が必要と思っています。
- ・男性の女性に対しての暴力だけは早期発見が大事だと思います。
- ・なかなか自分から相談に行けない人達が市内だけでなく全国にたくさんいます。
- ・昔のしきたりや風習などを変えていくのは大変な作業だと思いますが、少しずつでも良いので頑張ってる取り組んで下さい。

平成26年度(薩摩川内市調査)

- ・社会通念や慣習・しきたりなどの中に、男性優位に働いているものが多いので、各自治会等で情報紙やパンフレット講演、研修の場を定期的に行ない、出欠の確認・統計まで行って欲しいです。特に50代以上の男性に対して。
- ・育児に対する理解と保育所の安全管理、子供が熱を出した時の処置をどうするのか？どちらも対応できるような環境作りが必要ですし、女性は女性でできることを探して仕事をして欲しい。
- ・余裕がなく生活する為だけにしか働いてない人が多い。もっと遊び等に費やせる位の余裕が欲しい。結局共働きになり家庭環境も悪くなり子供も増えず少子化を助長する。今現在では悪循環になっていく一方。
- ・個人的な考えとして男女にはそれぞれ役割があり、そうできるよう体格や考え方等男女に違いがあるものとする。そういった人間が本来持っている感覚を無視した考えは平等ではないと思う。また、これだけ社会が多様化すれば本人が社会に出たいのであれば出ればいいし、出たくなければ出なくていいと思う。ただ、経済事情や生活環境によって出ざるをえない人も出る必要がない人もいる。そこは認識しておく必要がある。
- ・少子化を改善するためには、高齢出産に伴うリスクの啓発活動が必要だと思う。
- ・男女共同参画は女性に力を入れていると思います。
- ・女性だから男性だからではなく、出来る人や能力がある人が行い、協力が出来ることは一緒に行う。そのような教育を行い、社会の意識を変えて行かなければいけない。
- ・生物学的性差と社会生活を営む状況での矛盾をいかにして調和を取るかは、人類の夢なのかもしれません。行政が社会正義を行う基準を最終的に判断する司法があまりにも行政寄りという癒着が目につきます。原発再稼動に如実に出ています。大飯原発の地裁判決を真撃に受けとめる勇気が微塵も感じられない
- ・各支所の端末(窓口)に各データが落とされてない為、何度も窓口に行かなければならない不始末！！
- ・男だから女だからと言う前にひとりの人間として正當に評価する。
- ・男女共同参画社会の実現は人口減少・高齢化の進む自治体では無理がある。
- ・免許更新で古い免許証を返すのは鹿児島ぐらいだろう。春秋の火災予防の防火訓練もやっていない！
- ・子育てで誰でも保育所・幼稚園等の施設に入所出来るようにして、女性の社会参画が出来やすくなればよいと思う。
- ・非正規労働者が多い中では、そう言う社会の実現と口で言うには簡単な事だが今の若者にその様な余裕はないと思う。今以上に政治・行政に携わる人達の指導力が必要と思う。
- ・行き過ぎたジェンダーフリーの考え方は良くないと思います。
- ・お互いの立場を尊重し合える様な教育を特に家庭ですべきだと思います。
- ・家庭の運営は立派な仕事である。その評価がないことでおかしなことになっているのではないか。
- ・女性の社会進出については当然のことであり、今後、可急的速やかに進めていく事案であろうと考えます。ただ、ベースには個々人の能力というものが重視されるべきものであり、「法人の役員の何割が女性であるべき」とか「大臣のうち何名が女性であるべき」となってくると主旨に沿わない本末転倒なものになると思いますので、慎重を期して取り扱って頂きたいと思います。

平成26年度(薩摩川内市調査)

<p>・各人が思いやりの心で真に支え合う社会の実現を図る。</p>
<p>・他の市町村でも行政・市政の年度計画5年・10年計画と毎年各世帯に年度末3月には一冊ずつ配布しているが、薩摩川内市は何をやっているのか計画性が全く見られない。</p>
<p>・「女性の活躍推進に関する世論調査」では、国民の半数近くが「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」と考えているとの結果がある。子供の成長には母親の存在は不可欠であり、昨今の子供の凶悪事件の増加も家庭環境が原因とされる。核家族化の現在、昔の三世代、四世代同居家庭構造の良さを見直すことも必要である。国が掲げる「女性の活躍推進」は、言葉だけではなく、家庭環境は勿論あらゆる角度から考えていく必要がある。</p>
<p>・両親とも安心して働ける環境と仕事があること。</p>
<p>・子供は地域全体で見守り育てる体制。</p>
<p>・女性の過剰な行きすぎもあるのでバランスを考えていただきたい。</p>
<p>・アンケートの有効活用を望む。</p>
<p>・産業界・政治・行政・自治会、何よりも男女の意識に危機感がなければできないことです。そうそう人間の意識は変えられないと思うのですが。</p>
<p>・警察や消防も根拠にもとづいた仕事になされてない気がする。</p>
<p>・これまでの習慣・固定観念などをすぐに変えることは難しいと思います。時間(年月)をかけて末永く取り組んでいく必要があると思います。</p>
<p>・子供をたくさん産むことに抵抗があるのは出産までにお金もかかる、出産後もお金がかかる等の不安がどうしてもぬぐいきれないことが一つの要因ではないかと思います。</p>
<p>・少子高齢化が進み、人口の減少が街の衰退につながるという危機感から女性の力を借りたいという発想が根底にあるとするなら誰の協力も得られないだろう。</p>
<p>・調査の設問からは市としてどういうイメージの街作りを目指そうとしているのかが分からない。</p>
<p>・男女共同参画社会とは如何なる社会なのかが見えないのでは何の方策もない。男と女にはそれぞれ得手、不得手があり協力して出来る事とどちらかに任せた方が良いものがある。</p>
<p>・安心して子供を産める環境をつくってあげることが必要なと思います。</p>
<p>・男女共同参画社会の実現は、現代社会における理想であり、人権の観点からも当然に推進を図っていかなければならないことである。ただ、歴史を振り返ると、特に薩摩の国は「男尊女卑」を美徳としてきたことからまだその風潮は色濃く残っているように思う。色々な機会を通して、また企画して研修や啓発を行い、男女を問わず能力を生かした社会づくりの推進ができればよりよい社会の現実が期待できる。</p>
<p>・あらゆる機会を通じて、男女共同参画社会実現の啓発、教育を行うこと(幼時から一貫して)。そして行政は、それを実現できる制度、体制(環境)を整えること。それに尽きると思う。本気で取り組むこと。</p>
<p>・男女平等と言われて久しいですが現在は生活においては女性の方が家庭では強いと見える。家族のある男性に聞くと8割は主婦が強い。今さら男女共同参画ではなく前にも書きましたが子供の数が少ない現在、女性を活かせるのも良いが早めに結婚させて、子供手当で(10万1人)で生活できるようにする方が国の為と思う。高齢者の医療費1割等は止めて3割にするべき。高齢者を優遇するのが多すぎる。若者を優遇してあげるべきです。各議員さん達は票集めの高齢者優遇策である。</p>

平成26年度(薩摩川内市調査)

- ・男が仕切って来た従来の社会建設、運営に瑕疵がないのであれば、今、特段とり立てて進める必要もないと思われるが、そうでないなら何が不十分だったのかの検証が不可欠だろう。それがなければ結局はアリバイ作りだけのゴマカシとなる。
- ・男女共同参画という言葉だけが一人歩きし、意味・意義が市民へ浸透していないのでは。
- ・市民としての自覚や意識の向上を図ることが大切である。つまり知的な考え方(水準)を高めることがとても重要である。また男女共同参画社会の実現は一部の人のみのものになっている。まだまだ啓発活動が大切である。
- ・何事にもそうだが、良い事、悪い事等新しい事を始めるには世代が変わらないと変化が起きないように思う時にやはり小さい子供の時代からの教育が大事だと思う。
- ・主旨では男女共同参画といいながら都合が悪くなると逃げてしまう・・・と言う傾向が有ると感じます。
- ・自治会等小さな組織ではそれぞれの上に立つ役員の女性役員が少ない。
- ・各自が意識改革しなければ、情報、本、雑誌等で仕入れても変わらないと思う。すべて意識改革が大事である。
- ・男女よく話し合っって公平にお互いに努力し合っていくようにする。
- ・先日、少子化対策として県内のある地区で「きもいりどん」として、女性5～6人グループで男女(未婚者)の見合いの機会を作り、縁結びをして結婚までできることになれば、市の方から報償金がでるテレビを見ました。少子化対策により効果があるとのことで、その内の1組は近い内に子供が生まれるとの事でした。市でもアドバイザー、民生委員等から活躍する方を選び取り組むことにより少子化対策に期待があると思います。
- ・教育の充実(特に小学校時代における道徳人権教育)これを受けた人でないと家庭での教育は不可能である。
- ・男女の特性は異なるので、形だけの男女共同参画社会は難しい。長い時間と歴史が必要に応じて変化すると思う。時代が変われば女性上位の時代となる可能性もあると思う。
- ・社会の実現には子育て支援が一番重要と考え自分としては協力しておりますが、協力する人には何かポイントがあれば励みになります。
- ・女性少年室など適当とは考えにくい用語を廃止して欲しい。
- ・市民向けの広報が少ない。行政が真摯に取り組んでいる様子を余り感じない。
- ・市民一人ひとりが「男女共同参画基本条例」を知っているのか疑問に思います。何を目的としているのか分からないのは私だけでしょうか?
- ・女性部があるのなら男性部があってしかるべき。
- ・男女共同参画に賛成。しかし、全てが対等でありがたいが、男女には肉体的、精神的な違いがあると思う。男性は体力がすぐれ、女性は出産、育児。お互い変わることは出来ない。お互いが尊重しながら家庭、社会で助け合っって平等にいきたいと思う。島は少子化、過疎化が進み若い女性は宝です。若い女性は少ない。
- ・都会と違い女性の例えば常勤として働く場が少ない。鹿児島土地柄が男女の問題については封建的考えが根強い。女性自身が環境を変えることに対し、声が小さい。これらの解消が必要。